

## 「そうだ、聞いている」

明野キリスト教会 大頭 眞一



イエスは彼らに言われた、「そうだ、聞いている。あなたがたは『幼な子、乳のみ子たちの口にさんびを備えられた』とあるのを読んだことがないのか」。

マタイ 21・16

## I、聞いておられる主イエス

「ダビデの子に、ホサナ」という叫びに立腹した祭司長たちは、子どもたちをとがめるつもりで「あの子どもたちが何を言っているのか、お聞きですか」と尋ねました。主イエスは聞いておられました。彼らのようにではなく、幼な子の讃美を喜んでおられたのです。CSの働きの原点がこれです。主イエスが幼な子を求めておられるのです。

## II、幼な子を招く主イエス

二〇一〇年、明野キリスト教会のCSは岐路に。それまでのCSのメンバーであった教会員の子弟の進学によって、幼小科の生徒がいなくなってしまうのです。教師たちは祈りのうちに小学校でちらしを配り始めました。祈りは直ちに聞かれ、

三人の子どもたちが毎週出席するようになりました。みんなおうちにクリスマスチャンの方がおられない子どもたち、ときにはお友だちを誘ってやってきました。

## III、穴に落ちたイエスさま

はじめて教会に来た子どもたちとの礼拝はなかなか思うようにはいきません。讃美をとなり、お祈りのときはもそもぞ、メッセージの最中にも口をはさんだり。けれども去年のクリスマスのことです。「穴に落ちた君、どんなロープも届かない。足はけがで動かない。地上の人びとがあきらめる中、一人の人が穴に落ちてくる。その人が君を背負って地上へ。君はその人になんて言う？」という問いかけに一人の子どもが「嬉しくて、なんて言ったらいいかわからん」と答えました。幼な子の口に備えられた感謝、主イエスも聞いてくださったにちがいありません。

## IV、信じて求めるなら

冒頭の聖句の直後にあるのは、たちまち枯れたいちじくの木の記事。驚く弟子たちに主イエスは「祈るとき、信じて求めるものは、みな与えられるであろう」とおっしゃいました。祈りが聞かれる理由は、私たちの熱心ではなく、主イエスの熱心。続いて子どもたちのために信じて求めてまいりましょう。

# 牧羊者

## 目次

巻頭言	1
目次	2
カリキュラム	3
「二〇一二年度カリキュラム」解説	4
教師養成講座「児童伝道の重荷と幻」	5
受難週・復活《4/1～4/8》	15
キリストの教え①《4/15～4/29》	27
旧約⑤「十戒」《5/6～5/13》	45
キリストの教え②《5/20～5/24》	57
牧羊ひろば（京都聖徒教会）	93
おわりに	98

### 〔凡例〕

1、原語について：ギリシャ語は〔ギ〕、ヘブル語は〔ヘ〕、アラム語は〔ア〕で表記しています。

2、礼拝メッセージ例の最後の「さんび」の略記について  
 「ホーリネス・」〔ホ・〕……………日本ホーリネス教会  
 「インマヌエル・」〔イン・〕……………インマヌエル教会学校部  
 「日キ・」……………日本キリスト教団出版局

# キリストの恵みに応えて

マタイ21・3

## ● 受難週・復活

行事	テーマ	聖書	暗唱聖句
4月1日 ・棕櫚の日 ・進級式	主がお入り用なのです	マタイ21・1～11	同上3
8日 イースター	復活の主による喜び	マタイ28・1～10	同上6

## ● キリストの教え①

行事	テーマ	聖書	暗唱聖句
4月15日	さいわいな人	マタイ5・1～12	同上8
22日	地の塩・世の光	マタイ5・13～16	同上14
29日	内面の義	マタイ5・17～32	同上22

## ● 旧約⑤ 「十戒」

行事	テーマ	聖書	暗唱聖句
5月6日	十戒： 神との関係	出エジプト20・1～17	同上3
13日 母の日	十戒： 人との関係	出エジプト20・1～17	同上12

## ● キリストの教え②

行事	テーマ	聖書	暗唱聖句
5月20日	主の祈り： 神の御心	マタイ6・7～13	同上10
27日 ペテロ	聖霊待望の祈り	使徒1・12～14	同上14
6月3日	主の祈り： 人間の必要	マタイ6・7～13	同上13
10日 花の日 子どもの日	思い煩いからの解放	マタイ6・25～34	同上28
17日 父の日	天の父への祈り	マタイ7・7～12	同上11
24日	岩を土台とする生涯	マタイ7・24～27	同上24

## 二〇二二年度 カリキュラム解説

今年度の『牧羊者』カリキュラムは、昨年から始まった三年カリキュラムの二年目に当たります。以下、今年度カリキュラムについて、簡単に説明致します。なお、三年カリキュラムの全体については、二〇一一年度第一巻のカリキュラム解説（四〇五頁）を参照ください。

### ①新約聖書

新約聖書は、今年度も、「受難週・復活」「キリストの教え①」「同②」「キリストのみわざ」「キリストの教えと働き」「クリスマス」「キリストの十字架への道」という順で、イエス様のご生涯を一通り学びます。時には、キリストの救いへの招きがなされ、時にはキリストに従う者の生き方が示されます。

### ②旧約聖書

今年度の旧約聖書からの学びは、昨年度の内容からの続きになります。（三年で、旧約聖書全体を一巡する形

になります。）「十戒」「モーセ」「ヨシユアと士師たち」「サムエルと王たち」といった内容です。このようなイスラエルの歴史を通して、神様を信頼すること、神様に従うことを学びます。

### ③教会暦・行事を踏まえて

旧新約聖書を通しての学びの間に、基本的な教会暦や行事を踏まえた内容が入ります。これらも、できるだけ旧新約聖書の学びの流れの中で学ぶようにしています。

### ④テーマ「キリストの恵みに応えて」（マタイ21・3）

今年度のテーマとしては、「キリストの恵みに応えて」としました。キリストの救い、恵みを知った者として、その恵みを確認しつつ、恵みにお応えする生き方に招く内容が、比較的多くなっています。「主がお入り用なのです」との招きにお応えする子どもたち、若者たちが起こされますように。

# 「児童伝道の重荷と幻」

高松新生教会 小野淳子



## 一、はじめに

これは、「講座・講義」というよりは、「証詞」とした方がいいかもしれません。二〇一〇年5月22日（土）いのちのことは社CS教師セミナーでの講演のリライトです。と共に、すでにそれまでに、関東北・京都・大阪・兵庫・九州・信越教区でのCS教師研修会においてもお話してきたものです。

CS伝道のために、また児童の救霊のためにとの思いを抱きつつ、共に集まるだけでも、心が熱く燃えてくる思いがします。神様が私の内になして下さったこと、見せて下さったこと、教えて下さったことをお分かちできます場を、また、このような形で設けて下さって感謝い

たします。クリスチャンになって、この年の9月が来ると丸45年です。CS教師としても45年になります。ずい分昔の話にもなるのですが、しかしそれは、私のCS教師としての奉仕において、まさにゆるぎのない土台となっているものです。CS教師としての原点、基礎、土台のお話です。いわば私のCS教師としての大切な「霊の財産」とも言えるものです。

## 二、聖書のみ言葉

### 1、旧約聖書より、哀歌2・18～19

18 シオンの娘よ、声高らかに主に呼ばわれ、夜も昼も川のように涙を流せ。みずから安んじることせず、あなたのひとみを休ませるな。

19 夜、初更に起きて叫べ。主の前にあなたの心を水のように注ぎ出せ。町のかどで、飢えて息も絶えようとする幼な子の命のために、主にむかつて両手をあげよ。

## 2、新約聖書より、マルコ10・14～15

14 それを見てイエスは憤り、彼らに言われた、「幼な子らをわたしの所に来るままにしておきなさい。止めてはならない。神の国はこのような者の国である。

15 よく聞いておくがよい。だれでも幼な子のように神の国を受けいれる者でなければ、そこにはいることは決してできない」。

## 三、召命の不思議

まずは「召命の不思議」を思います。私自身は、子どもの時、CS（教会学校）を全く経験していません。岡山大学3年生の秋、20才の9月8日（金）に、生れてはじめて罪の告白をし、徹底的な悔い改めの祈りの中で、身代わりの十字架のキリストと衝撃的な出会いをして、180度変えられた者です。それまで、高校時代も、大学に

入ってから「クリスチャンにはならない、なれない、あんな生き方はできない」と、ジイドの「狭き門」などを読んで思っていた者がクリスチャンになりました。それに、牧師になるなどとは、みじんも考えたことはなかったし、CS教師としてご奉仕にあずかれるなどとは夢にも考えたことはありません。ほとんどひとりっ子のように育ちましたので、あまり子どもへの関心もなかったのです。ですから、CS教師への召命も不思議の一言です！

私の場合は、一九六七年3月5日（日）に初めて教会に行き、毎週の礼拝メッセージで霊の目覚めが与えられ、認罪が日々、重く深くなつて行きました。7月になって、9月に洗礼を受けたいとお話したあと、まだ洗礼は受けてもいないのに、長島先生から「幼稚科の先生のお手伝いをしてみなさい」と言われて、ベテラン幼稚科の先生のそばでお手伝いを始めました。それが私のCS教師としての召命だったということです。

どういう形でCS教師になったかはいろいろあるとしても、召されたお方は神ご自身です。「私」という者の正体も、賜物も、長所も短所も欠点も、何もかもいっさ

いを知りつくされた上で、この尊い務めに召して下さるのが神様なのだとの深い認識は大切です。その時、信仰においても、奉仕においてもさまざまなことがある中で、いつもこの原点に立ち返り、なお整えられて進むことができるでしょう。どんな時でも、このお方の前に座り直していく時、そのつど、新しい力と光と導きとアイデアと信仰と希望が与えられるにちがいないと信じる者です。神に直結したCS教師でありたいです。

## 四、神の摂理の中で

救い主、大牧者なるイエス・キリストとの出会いも「不思議」の一言ですが、「不思議」と名のられる主による、人との出会いも不思議で尊いものです。私自身のCS教師としての奉仕の背後に神様が出会わせて下さった二人の神の器がおられました。

### 1、長島幸雄師との出会い

私が先生と共にいた期間は一九六七年3月5日～一九八六年2月27日（ご召天日）です。

先生は、一九五一（昭和26）年7月、日本イエス・キリスト教団創立総会にて、初代CS局長となりました。その先生が、教育教案誌に『牧羊者』と名付けられました。歴代のCS局長が立てられ、また執筆陣が備えられ、受け継がれて、現在60年以上続けられてきていることは、まさに大牧者なる主のご熱心以外の何ものでもないと思えます。現在のCS局長、長尾秀紀先生もいわば長島幸雄先生の弟子です。長島先生が召される直前に神学校への推薦状を書きました。

長島先生のCS観を言えば次のようになるでしょうか。先生ご自身は東京の人でしたが、戦後一九四六（昭和21）年から、ご夫人智恵子師の実家、岡山の地で開拓伝道をされました。ある時、子ども伝道に力を入れてこなかったことに大きな悔いを覚えられました。

「そうだ、子どもは10年たてば大人だ！10年はあつという間だ」と。それ以後、児童伝道に力を注いでこられました。先生がいつもCS教師に語っておられたことは、「CS教師は伝道の最前線だ」ということでした。すなわち、集まって来る子どもたちに何ら妨げられることなく、存分に、ストレートに福音をそのまま、大胆に語れ

る。そんな最高の機会に恵まれ続けているのがCS教師だ、ということ forcefully おられました。そして主管牧師であられながらも、幼小科や中高科の礼拝のメッセージを、入院されるまで語って下さいました。今でもその中のいくつかのメッセージと先生のお姿が魂に刻まれ、再現できるほどのです。ご召天前の夏には、海辺のキャンパスにも参加、子どもたちと共に泳がれました！

## 2、堀江博師との出会い

私の神学生時代は一九六九年4月～一九七二年3月でした。もう卒業して、この3月でちょうど丸40年ですから昔の話です。恵まれた熱い教師陣の一人に堀江博という先生がおられました。神戸大石教会を牧会しておられました。先生はまさに、上より「児童伝道者」としての召命を直接、主から頂かれた先生で、その召しのかしは感動的でした。その先生から「CS・教会学校論」を学んだのですが、「<sup>えいじ</sup>嬰児科」という、母教会ではなかったものを教わりずつと心に留ま<sup>とど</sup>っていました。卒業後、伝道師として母教会につかわされ、そこで、花開きました。のちに詳しく、あかしとして記します。

堀江先生が、これも生涯をかけて執筆しておられた「おさなご」誌というのが毎月発行されていました。主の召しに応えて、心血注いで編集発行発送をしてもらったものを、私たちのCSでも購読し、毎月みんなでクイズの答を送ったり、プレゼントを贈って頂いたり、交流させて頂いておりました。思えば、その先生の、小さな魂への熱が筆にこもっていたのが、私自身の魂にも深く潜<sup>ひそ</sup>んでいたのかもしれない。奇しい摂理の中で、「牧羊者」のカリキュラムに沿った「子ども聖書日課」を二〇〇四年春より執筆し始めて、今年9年目に入りました。二〇一二年度第1巻からは、はじめの一カ月分を田中愛子師が担当して下さいることになりました。感謝です。

## 五、私のCS教師歴より

### 1、求道者時代（一九六九年3月5日～9月8日）

20才、約6カ月間

3月5日（日）に初めて、母教会の礼拝に出席しました。大学2年生の春でした。2月26日（日）にスタンレー・ジョーンズ博士の集会からの帰り道、神の愛に目が啓<sup>ひら</sup>か

れ、この愛を知りたいと、初めて3月5日、翌週の礼拝に出たわけでした。その求道者時代から、先生が、「幼稚園科のお手伝いをしなさい」と言われたので、ベテラン先生の横と一緒にいたわけです。

その中で、忘れられない霊の印象があります。夏頃になると、深い認罪<sup>にんざい</sup>を覚えるようになっていたのですが、CSの分級で、ある朝、幼稚園科のお友だちの前にいた時、まだ自分が悔い改める前のことだったので、目の前に座っている幼な子たちがあまりに清く見えて、その瞳も純粹に輝いていたし……。私は人知れず、冷や汗をかくほど畏れ<sup>おそ</sup>を覚えたのでした。清くなければ子どもたちの前には立てない！

## 2、信徒時代（一九六七年9月8日～一九六九年3月31日） 20才～21才、約一年半

9月8日（金）夕方6時半。徹底的な悔い改めの中で十字架上のイエス・キリストに出会って、180度転換、新生！9月17日（日）水のバプテスマ。その次の週から、5～6年生男子、4～5人の分級担任。大学最終学年は高校科男女7～8人を受け持ちました。分級でしたが、

子どもたちや生徒に語るには、聖書を学ばねばなりません。よくよく聖書を読み、『牧羊者』に目を通し、熱く語りました。聖書について知ることができたCS教師の大きな特権を味わいました。CS教師をしていなかったら、聖書をそれほどにも分からなかったと思います。しかし、この頃の私は、CS奉仕がなんであるのかなど、全くわかっておりませんでした。

## 3、神学生時代（一九六九年4月1日～一九七二年3月10日） 22才～25才、3年間

一年生は垂水教会奉仕。名誉牧師 沢村五郎師・百々枝師、主管牧師 中島彰師・ふかえ師、副牧師 工藤弘雄師・須美子師でした。二年生は、神戸聖泉教会。足立幹夫師・直子師でした。三年生は、尼崎福音教会、三島常夫師・トミ子師でした。

それぞれの教会で当然CS教師として御奉仕がゆるされ、分級はもちろんのこと、CSあるいは中高科で礼拝説教もさせて頂きました。ところが、よい実習をそれぞれの教会を通し、先生方との接触、御指導の中で頂いて、今でも忘れられない霊の恵みはハッキリとしています。

そのような中でも、私はCS奉仕が何であるのか、全くといっていいほど、わかってはいませんでした。

4、伝道師時代（一九七二年3月10日～一九七五年12月30日）25才～28才、留学前3年8ヶ月間

### CSへの開眼

一九七二年3月10日（金）に、関西聖書神学校を卒業して、その次の聖日3月12日（日）から、伝道師として着任しました。

長島師がちょうど教団委員長の時でしたので、2年先輩の伝道師の先生と共に仕えていました。私はCS幼小科の担当となりました。先輩が中高科を受け持たれました。その頃、24～25名ほどのCS礼拝でした。心に大きな重荷を覚えて、主のみ前にぬかずいたのです。そこから、私の内にCSの泉が湧き出たのです。（詳しくは「六、重荷と幻」の項で。）

5、英国にて（一九七五年12月31日～一九七九年9月26日）28才～32才、3年9カ月間

### さらなる開眼

インマヌエル・バークンヘッド教会で、アイルランドで、ビーチミッションで、また、神学校の友人との交わりを通して、幼な子も救われる事実に向直し、さらなる開眼でした。

## 六、重荷と幻（伝道師時代のCSへの開眼）

### 1、聖書のみ言葉

ご主人様、あなたはわたしに五タラントをお預けになりましたが、ごらんとおり、ほかに五タラントをもうけました。

マタイ25・20～21

密室の祈り―私にとっては、講壇のふもとでした―の中で、CSのために祈っていた時、このみ言葉が心に浮かびました。『ほかに五タラント』つまり、量的にも、

質的にも倍に！

## 2、密室の祈りと訪問

実はこの『密室の祈り』の中で、CS奉仕が何であるのかを徹底的に知らされ、これが一番言いたい所と言っても過言ではありません。

毎晩、大体21時くらいから、暗い礼拝堂の講壇の下所にひざまずいて祈りました。ひとつひとつのクラスの担任の先生と、クラスの子どもの名前を一人ひとりあげて祈るのです！特に、CS礼拝に来られなかった子どもたちの為にはあつく！

こうした密室の祈りと共に車の両輪のようなものが「訪問」です。欠席した子どもたちには、必ずその週の内に訪問して、み言葉と週報を届けます。これは大人の牧会伝道でも同じだったのですが、小さい金言カード（み言葉カード）のうらに名前を書き、「次の日曜日、ぜひきてね！」と記して、ポストに入れます。後に、子ども週報「みつかい」（これも長島師の命名）が発行されるようになり、金言カードをそれに貼りつけて配りました。大人はなかなかでも、当時のことでしたから、子ども

も私たちはとてもいい反応を示しました。

次第に子どもの数は増えていきました。子どもの反応はとてもよかったのです。一九七二年、つかわされたその年、年間平均が47名になって、涙があふれました。一つのクラスがどこも10名を超えるようになり、一九七五年、つまり3年後には、CSの礼拝が100名を超えるようになり、一九七五年4月からは、幼く小3、小4く小6と、二つに分けての礼拝となりました。特別な折には一緒にすると110名とか115名とかになり、礼拝メッセージにも力がこもりました。

この密室の祈りの中で、暗闇の中で、礼拝堂の講壇の前で祈るのですが、その頃の私は、大体200人くらいの人々、教師と子どもたちの名前を宙で覚えて祈っていました。（いまだに覚えている名前も沢山あります！）

この密室の祈りの中で、深い霊のチャレンジを、一生涯、忘れ得ないチャレンジを頂いたわけです。

①あなたは今、そのように一人ひとりのため心を注ぎ出して祈っているが、『その中の一人の魂のためにでも死ぬますか』との主よりのチャレンジ。果たし

て、本当に死ねるだろうか…。

## ②ひとりの重み

私という存在は、全歴史全宇宙の中で、ユニークな存在。他にはないかけがえのない、ただひとりの存在。その私が永遠に生きるか、滅びるかは重大問題！今祈っているあの子にとっても、この子にとっても全く同じく重大問題！だから、救われなければならぬ！！のです。

このようにして、霊と重荷の深みに入れられ、密室の祈りは涙の祈り、救霊の祷告となっていました。以来幼な子、子どもたちを見れば心が熱くなるのをおさえられなくなりました。

## 3、渡英と帰国（一九七五年12月30日）28才、（一九七

九年9月26日）32才

英国でさまざまなチャレンジングなCS宣教と奉仕を見させて頂いた中で、子どもたちが、7才とか8才とかでも、悔い改めて、信じて救われる！その事実に出くわしました。今も、私のために毎日祈っていてくれるアイル

ランドの友人も、8才で救いを確信したとあかししてくれました。JEB（日本伝道隊）宣教師のドロシー・ホーア先生は3才の時、ピアノの鍵盤に印をつけたことで認罪が与えられ、救いに入れられたと聞いています。よく物事がわかってから、中学生くらいになってからというのが母教会の方針でしたので、大きなチャレンジでした。帰国時の重荷を記します。学びが終了したので、自動的に帰国するというのとは少しちがっていました。英国にいても十分日本人伝道のできる状況で、祈りの内に、私は、再度英国の地から日本につかわされる思いで帰国しました。神学校では月1回水曜日に「海外宣教祈禱日」があつて宣教師の方々の手紙が読まれ、祈り合う一日がもたれていました。

ある日、V・マグラス先生のプレーヤー・レターの中にあった「進学の悩みの中で6人の若者たち（最年少は9才）が一緒に自殺した」という一文が読まれました。ドカッと重荷が魂にのしかかってきた思いでした。密室に退いては、主に祈りました、「主よ、福音があるではありませんか」と。日本のために祈ろうとすれば、まず出てくるのは涙、涙。そのような中で、帰国に際して、

主からみ言葉が語られました。

「一粒の麦が地に落ちて死ななければ、それはただ一粒のままである。しかし、もし死んだなら、豊かに実を結ぶようになる」(ヨハネ12・24)でした。

一粒の麦として死に、豊かに実を結ぶために、改めて英国から日本に遣わされていくという感覚で帰国しました。一九七九年9月26日(水)大阪・伊丹国際空港へ20時30分くらいに着陸する前に、飛行機の中の電気が消されました。私は窓際の席で、着陸しようとする飛行機の中から、大阪の街の灯りが見えた時、「この国のために、この国のために」と、涙が溢れたのでした。

## 七、えいじか 嬰兒科・小羊会よりの結実

堀江博師より教わった嬰兒科を実践することのできる状況が整えられていました。母教会はベビーブームで0才〜3才の子どもたちが10名ほどいました。特に家が遠くて、教会学校に来れない子どもたちが、親と一緒に礼拝に出ていました。この子たちのために嬰兒科をと思い立ったわけです。礼拝終了直前の10分〜15分ばかりの報

告の時間を用いて、別室に集まってさんび(イエスさまが一番)をし、お祈りし、み言葉を言って、短くお話、もう一度さんびして終るというものでした。

留学中も継続されていた嬰兒科でしたが、小学生になっていたので、「小羊会」と名付けて継続。もちろん、さんびもふえ、み言葉も共に暗唱し、お話も理解に応じて語りました。

とても楽しそうに、うれしそうに聞いてくれていたのが印象深く心に残っています。数も次第にふえ、20名ほどにふくれました。クリスマス礼拝では、創作のオリジナル一場面劇ページェントをして、顔見せの時もちました。

嬰兒科を開始した一九七二年三月、最初からいたのが一歳一カ月だった後藤真師(旧姓・吉田)でした。

私が舎監の時代に献身してこられた折には心より聖名を崇め、後藤師の証詞はまさに、恵みの逆輸入でした! こうした祝福の結実の中で、忘れてはならないのは、子どもたちを毎週、主のみに前に連れてこられた両親、あるいは、そのまた両親の信仰と愛の労苦です。心から、大きな拍手を送ります!

終わりに「幻」です。それは今も祈っている幼い魂が、やがてキリストの十字架のもとにぬかずき、キリストの愛にとらえられる時が必ず来ると信じて、その幻を抱いて祈り労していくことです。

許される限り天に召される時まで、終生現役のCS教師でありたいと祈り願います。

一九六九年4月に関西聖書神学校に入学する前に、前年の12月20日、C・H・スポルジョンの「夕ごとに」を読んで、心がふるえる思いで「救霊者として生かされたい！」と霊の感動を覚えたのでした。その一文（後半）を記します。

救霊者となることは、この世における最も幸いなことである。あなたは一つの靈魂を主に導くたびに、この地上に新しい天国を得る。しかし、天上で私たちを待ち受ける祝福を、誰が想像できよう！「主人と一緒によろこんでくれ」という御言葉のすばらしさよ！救われた罪人のために、キリストがいかに喜ばれるかをあ

なたは知っているか。この喜びこそ、私たちが天において得る喜びである。主が王座にのぼられる時、あなたも彼とともにのぼる。「よくやった、よくやった」という声が天をゆるがす時、あなたは報いにあずかる。あなたは彼とともに労しともに苦しんできた。今や、あなたは、彼とともに支配する。あなたは彼とともにまいてきた。そして彼とともに刈り取るのである。あなたの顔は彼の顔のように汗におおわれ、あなたの魂は、彼の魂のように人々の罪を悲しんだ。今あなたの顔は彼のごとく天上の輝きに照りはえ、あなたの魂は、彼のごとく祝福の喜びに満たされる。（C・H・スポルジョン『夕ごとに』12月20日分より）

その時の霊の感動は、今も薄らいではいませんし、生涯、薄らぐことはないでしょう。

# 聖書 テーマ マタイ21・1～11 主がお入り用なのです

序論

(金井信生)

十字架を目前にした最後の日曜日、イエスは子ろばに乗ってエルサレムにはいられました。これは謙遜な僕となられた主の使命を示す姿です。そしてイエスをお乗せした子ろばの姿に、私たちが謙遜に主に従うことを教えられます。

## 一、主が必要としておられる

イエスはふたりの弟子をつかわして子ろばを引いて来させました。そして、もし子ろばの持ち主に聞いたдалえたら、「主がお入り用なのです」と答えるよう教えられました。イエスがご自分のことを「主」と呼ぶのはこの時だけです。しかしここでは、あえて「主」と名乗られます。天地の造り主であり、歴史の支配者であるお方が、このとき子ろばを必要としていることをはっきりと示すためでした。

子ろばが主に呼び出されたように、私たちもまた、主

がその働きのために用いようとしておられる存在です。神様が私たちを救われたのは、愛のゆえであり、やがて天国に迎え入れるためであり、そして地上に与えられている日々を主と共に労するためです。

私たちはまことの神様を必要とし、愛を、命を、真理を、救いを必要としています。しかし、神様が私たちを必要としておられることを考えたことがあるでしょうか。

## 二、主の同労者となる

この時は過ぎ越しの祭りが近づいていました。ユダヤ人の愛国心が熱狂的に高まるときであり、ローマの総督は、ふだん暮らしている地中海沿いのカイザリアから警戒してわざわざエルサレムに上ってくるほどでした。もしそこにイエスが馬に乗ってエルサレムに入ってこれたら、そして人々が歓呼の声で迎えたらどうでしょうか。たちまちイエスは、何をたくらんでいるのかと捕らえられてしまったことでしょう。ろばの子だからこそ、イエスは無事にエルサレムに入り、十字架までの数日間を過ごすことができたのです。

お互いの間にも、この人が出てきたら、みんなその意見を聞くとか、なんとなく場が和むという人がいます。

逆に、この人が出てくると話がややこしくなる、口を出すとかえって言葉が激しくなるという人もいるかもしれません。

「平和をつくり出す人たちは、さいわいである」(マタイ5・9)。私たちも主がお入り用とされるものでありましょう。

### 三、主の必要にいたえる者になる

ここで主が必要とされたもう一方は、二人の弟子です。主イエスはろばの子を借りてくるために、二人の弟子に頼まりました。何のために、役に立たないようなろばを借りてくるのかと、あるいは疑問に思ったかもしれない弟子たちです。しかし、主の言葉どおりに見て、本当にその通りになったことを経験できたのも、この二人です。

このくだりを読むと、弟子たちの知らないところで、イエスがあらかじめろばの用意をしておられたようにも読むことができます。最後の晩餐の席もそうです。主はご自身の必要のために、私たちがまだ知らないところで、すでに働き手を用意しておられることがあるのです。エルサレムは、アブラハムが息子イサクを犠牲として

献げようとしたモリヤの山(創22章)です。主の言葉に従って息子イサクに刃物を下ろそうとしたとき、主はアブラハムの信仰を認め、その手を止められます。アブラハムが振り返ってみると、木の茂みに雄羊が引つかかっていたいました。「主の山に、備えあり」とは、たとえわからなくても主に従っていくときに、主ならではの解決があることです。

やがて弟子たちはさらに大きな、主の言葉の成就を見ます。それは十字架に至る主の受難と、復活の栄光です。さらに主は弟子たちに、救いの知らせを携えて全世界に出て行くよう命じておられます。

主はろばの子の無力さを問題にされずに、大きな働きに用いられました。私たちも主に用いていただける幸いを感謝し、今度はキリストの心になって、自分が必要とされていないと落ち込んでいる人に、主はあなたを愛し、必要としておられるとお招きしましょう。

### 結論

小さい者を見出し、用いてくださるキリストと心を一つにして用いていただきましょう。

## 研究資料

(中島啓二)

イエスのエルサレム入城を人々は熱狂的に迎えた。彼らの期待は、ダビデの血筋であるこの救い主が、ローマからユダヤ民族の独立を勝ち取ることであった。しかしイエスは軍馬ではなく、ろばに乗って来られた。それは謙遜な僕としての救い主の使命を象徴するものであった。そして「おのれをむなしくして…十字架の死に至るまで」(ピリピ2・7く8)その謙遜を貫かれたのである。

## テキスト

1 **オリブ山** 「その日には彼の足が…オリブ山の上に立つ」(ゼカリヤ14・4)とあるように終末論的に重要な場所。イエスの昇天、再臨にも関係がある。**ベテパゲ** ベタニヤの近くであったろう。

2 **向こうの村** おそらくベタニヤであろう。**するとすぐ** 一切が神の計画のもとで備えられていることを暗示する表現。4節にあるように旧約で預言されてきた神の計画としての必然である。

3 **主がお入り用なのです** 「主」ここでは、神、イエス、(ろばの)主人、のいずれをも指しうる。だが聞く側はさて

おき、語る側は当然、イエス(あるいは神)の必要として告げる。**すぐ渡してくれるであろう** 渡してくる人がろばの持ち主なのか使用人なのかは明らかでない。よって貸す動機も明白ではない。けれども大事なことは、神の計画が前進するための必要に対し、その人がそれを拒むことなく提供したということである。

4 **預言者によって言われたこと** ゼカリヤ9・9からの引用(イザヤ62・11も加味)。**成就するため** 主イエスは預言者を通して予告された神の計画が成就するようにと意図的に行動された。

5 **シオンの娘** エルサレムの住民を指す表現。**柔和なおかたで** 柔和(ギブラウス)は11・29でイエスご自身について用いられた表現。救い主として来られる王は、征服者として軍馬にまたがって来るのではない。柔和な平和を告げる僕として、謙遜にも、ろばという庶民的な家畜に乗って来られるのである(ゼカリヤ9・9く10)。**ろばに乗って、くびきを負うろばの子に乗って** これはヘブル語特有の並列法(同じことを少し表現を変えて繰り返し説明する表現法)であり、ゼカリヤが語るのは二頭ではなく、一頭の子ろばである。

7 **ろばとろばとを引いてきた** ここに二頭のろばが登場

するのはなぜか。マルコはそのろばを「まだだれも乗ったことのないろばの子」(11・2)と説明する。マタイはそのように説明する代わりに親ろばが一緒にいたことを示し、子ろばの未熟さを強調するのである。初めて仕事をする子ろばには親ろばが付き添うのが通例であった。

**8 群衆のうち多くの者は** 新共同訳では「大勢の群衆が」。

「多い」(ギリヤ)と「群衆」の修飾関係で訳の違いが生じるのだが、それはさほど重要ではない。より肝心なことは、ここで「多い」の最上級が用いられていること。ちよつとの群衆ではなく、祭りのような大群衆であつたのである。上着を道に敷き これは相手を王と認める象徴的な行為(列王下9・13)。木の枝を切つてきて道に敷いた 子ろばに乗つて謙遜に入城するイエスを、群衆は王を迎える態度で迎えたのである。

**9 ダビデの子** ダビデの流れをくむ王の意。ホサナ アラム語。直訳は「救つてください」。ちなみに詩篇118・25「どうぞわれらをお救いください」は〔ホシアーナー。転じて「く」に「救いあれ」、さらに「く」では「く」に「栄光あれ」という意味だろう。主の御名によつてきたる者に、祝福あれ 先の〔ホシアーナーに続く節「主の御名によつてはいる者はさい

わいである」(詩篇118・26)の七十人訳(ギリシャ語訳旧約聖書)と全く同じ。詩篇では祭りで神殿に近づく巡礼者を第一義的に指すが、ここではその巡礼者たち(群衆)が、待ち望んだ救い主を祝福し、自らもその祝福にあずかろうとするのである。いと高き所に、ホサナ 神の祝福が王なる救い主にあるようにとの祈り。初代教会では、既に来られて救いを完成し、やがて再び来られるお方への賛美の定型表現となつた。

**10 町中がこぞつて騒ぎ立ち** 十字架のときの「地震があり」(27・51)と同じ動詞。主の入城はエルサレムにまさに激震を与えたのである。

**11 ガリラのナザレから出た預言者イエスである** この「預言者」は申命記18・15にあるような特定の終末的預言者を指すのではなく、単なる敬称に過ぎない。群衆は、王なる救い主の本当の使命を理解してイエスを迎えたものではなかつた。熱狂はすぐに冷め、逆にイエスを十字架へと押しやる力に変わつていくが、それもまた、へりくだりの僕にとつて通るべき道筋だったのである。

参考図書 注解書 D. H. Hagner (Word), D. Hill (New Century Bible), その他 The IVP Bible Background Commentary: NT

聖書

マタイ21:1-11

タイトル

あなたが必要です!

暗唱聖句

主がお入り用なのです マタイ21:3

目標

キリストのために用いて頂く者となる。

## 導入

(飯田勝彦)

4月になりました。それぞれが、ワクワクした思いで新しい年度を迎えているでしょう。

小学校に入学したり、新しいクラスになったりする中で、皆さんが楽しみにしていることがありますか? イエス様にも楽しみに思っていることがあります。それは、皆さんを素晴らしい神様の御業のために用いることです。神様の素晴らしい御業のために用いて頂けるなんて、幸なことではないですか?

## エルサレム入城!

今朝の箇所には、イエス様がエルサレムへ入城されることが記されています。イエス様のご生涯は、馬小屋からエルサレムへ向かって行く生涯でした。それは、私達を罪から救うために、多くの人から苦しめられ、十字架で殺される道でした。皆さんなら、自分が多くの人

からバカにされ、殺されてしまう場所へと進んで行ったりできますか?

イエス様はエルサレムへ、旅行気分であられたわけはありません。ルカの福音書には「イエスが天に上げられる日が近づいたので、エルサレムへ行こうと決意して、その方へ顔を向けられた」と記されています。イエス様は、神様からの使命をしつかり自覚してエルサレムへ入城されました。

もし、イエス様がエルサレムに入城されることを止められていたなら、私たちが救われることはありません。ここに、恐ろしい罪から私達を何とか救いたいと思われる、イエス様の情熱を見ることができないのではないのでしょうか。

## 子ろばに乗って!

イエス様がエルサレムへ入城された方法は何だったでしょう。カッコイイ車に乗られて入城されたでしょうか。それともサラブレッドのようなりっぱな馬で入城されたでしょうか。いいえ、イエス様は、何と子ろばに乗って入城されたのです。「え、どうしてイエス様は、弱っちい子ろばなんかに乗られたの?」と思うでしょう。

エルサレムに入城される前、イエス様は弟子たちに「向こうの村に行きなさい。するとすぐ、子ろばがつかれていっているのを見るであろう。それを解いてわたしのところに引いてきなさい。もしだれかが、あなたがたに何か言ったら、主がお入り用なのです、と言いなさい。そう言えば、すぐ渡してくれるであろう」と言われました。イエス様は、あえて子ろばを選ばれたのです。

これは、旧約聖書の時代から、救い主であるメシヤが平和をもたらす王として、ろばに乗って来られると、エルサレムの人々に預言されていたのです。メシヤであるイエス様は、その預言を実現させるために、またご自身が救い主であり、平和をもたらすために来たことを示すために、子ろばを用いられたのです。

### 主がお入り用なのです！

イエス様を用いられた子ろばは、他の福音書を見ると、まだだれも人を乗せたことのない子ろばでした。子ろばにとつては、初めて背中に乗せる人がイエス様であつたのです。

子ろばは、大人のろばや馬と比べると比較にならないほど力がありません。でも、イエス様は、使い物になら

ないような子ろばを用いられ、エルサレムへ入城されました。

イエス様を用いられるのは、決して賢い人や力の強い人、また経験が豊かな人ではありません。イエス様は、あえて愚かな人や弱い人を用いられるのです。皆さんの中に「自分は賢くないし強くもない。何も出来ない。ダメだ」と思っている人がいませんか。でも、イエス様はそのようなあなたに「あなたが必要です。あなたを用いたい」と声を掛けられます。子ろばの持ち主は、「主がお入り用なのです」と言われた時、子ろばをすぐにイエス様に用いて頂くように弟子たちに渡しました。

### まとめ

皆さんは、イエス様に必要とされています。

皆さんも自分自身をイエス様に差し出してください。

そうすれば、イエス様が皆さんの思いを超えて神様の御業のために用いて下さいます。

♪わたしたちは ろばの子♪

(ホーリネス子どもさんびか 99)

# 聖書

## マタイ28・1〜10

### テーマ 復活の主による喜び

#### 序論

(金井信生)

イースターおめでとうございます。私たちに代わって十字架に死んでくださったイエスは、よみがえられ、私たちに新しい命を与えてくださいました。

#### 一、「平安あれ」

安息日が終わった明け方、イエスの墓を訪ねた二人のマリヤの前に、み使いが現れ、「イエスはよみがえられた」と告げました。そして弟子たちのもとに戻ろうとする二人に、イエスが「平安あれ」と声をかけられました。戸惑い恐れながら帰ろうとする女たちに、イエスは「平安」を託されました。弟子たちもまた不安と恐れに閉じ込められているからです。

十字架直前の最後のメッセージでも、イエスは「わたしは平安をあなたがたに残していく。わたしの平安をあなたがたに与える。」(ヨハネ14・27)と語っておられました。

言葉そのものは「シャローム」という、ユダヤ人にとって平凡な日常的なあいさつです。しかし、ただ祝福を願う言葉としてではなく、私たちがいだくすべての恐れや不安に打ち勝ち、吹き飛ばすお方が、現実のものとして「平安あれ」と宣言しておられるのです。「光あれ」と主が命じられると闇の中に光が現れました。主によって心にもいつも平安をどっかりと据えていただける幸いをおぼえます。

#### 二、御国に目覚める朝を望んで

主イエスの復活は、神の救いの確証です。イエスを見捨てて逃げ去った弟子たちも、さらにはイエスを十字架につけたもののさえも、神の前に罪が赦ゆるされて新しい命に生かすために、主はよみがえられました。

「恐れることはない」との主の言葉は、よみがえられた主が、これからずっと共にいてくださることを信じる者が、生涯握り続けることのできる約束です。イエスはご自身が経験されたように、私たちが生きていく以上は必ず、別れ、失う悲しみがあり、病や痛みを負う苦しみがあり、ひとりぼっちの思いに沈むことがあることも知っ

ておられます。

しかし、悲しみは慰められる、苦しみや痛みはいやされる、あなたは決して孤独ではない、わたしが共にいるし、あなたを助ける人が必ずいる、それがイエスの「恐れることはない」との励ましの言葉です。私たちの人生のさまざまな場面にも、イエスの復活の光が届いているからです。

やがて私たちは、地上の生涯を閉じるときが来ます。しかしその時も、イエスの手に委ねていれば、永遠の御国に目覚める希望があり、平安を得ることができます。

### 三、信仰による夜明け

イエスに従ってきた人たちは、これまでもイエスを信じてはいました。しかし、イエスの復活は、その信仰が問われるときです。

墓の口が開いたのは、すでにイエスは復活しておられますから、そこからイエスが出てくるためではなく、中が空っぽなのを見せるためです。空っぽの墓を見てどう判断するのか、信仰が問われています。

しばらくして、十一人の弟子たちは、ガリラヤでイエ

スに会って拝しますが、目の前にイエスが立たれても、まだ疑う者もいたとあります。

私たちがイエスの復活を信じるとき、自分が納得できたら信じようと思っているなら決して信じることはできません。今、私たちは、神から与えられた言葉である聖書を通して神を信じ、救い主イエスを信じて歩み出す中で、生きておられるイエスにお出会いすることができす。そして、イエスと出会うのはじめて、復活が自分にとってどのような意味を持っているのかを悟ることができるようになります。

疑いや迷いはあります。しかし、イエスが、こんな弱い疑いや弱い者を赦し救うために十字架に死んでくださったこと、そして、私と共に生きるために復活してくださったことを信じましょう。いつも主の命の光の中に、平安と希望をもって生きることができす。

### 結論

復活のキリストにお出会いするとき、失望や恐れは喜びに変えられ、平安があふれます。信仰によってキリストを拝しましょう。

## 研究資料

(中島啓二)

福音書の記者たちは、イエスの復活の場面を直接には描いていない。最初の証言は、<sup>なか</sup>空の墓という証拠を伴った、天的な存在(「タイでは「主の使」」)による報告である。もちろん墓が空でなければ、教会がイエスの復活を信仰の中心に据えることは不可能であった。しかし空の墓は、信仰のきっかけとはなつても、逆の立場の論拠にもなり(28・13)、それ単独では復活の確固たる証拠にはなり得ない。そこには復活のイエスと会った者の目撃証言が不可欠なのである。その最初の証人となつたのが女性たちであった。この聖書の女性観は、その時代の女性観をまったく覆すものであったと言える。現代と比べて女性の証言が著しく軽んじられていた時代背景の中で、もし福音書が人の手による創作であつたならば、この重要な役割は、決して女性には託されなかつたであらう。逆説的であるが、このこともまた、イエスの復活と、それにまつわる聖書の記述の信頼性を力強く証するものであると言えよう。

## テキスト

1 安息日が終つて 安息日は土曜日の日没をもって終わ

る。しかし女性たちは安全と視界確保のために、週の初めの日の明け方 まで待たねばならなかつた。マグダラのマリヤ すべての福音書で復活の最初の証人として挙げられている。ほかのマリヤ 「ヤコブとヨセフ」(27・56、マルコ15・40では「小ヤコブとヨセ」)の母マリヤであらう。さらには「クロパの妻マリヤ」(ヨハネ19・25)と同一かも知れない。墓を見に来た 亡骸<sup>なきがら</sup>に香料を塗るため(マルコ16・1)であらう。

2 主の使が…石をわきへころがし 女性たちが墓に入るためであつて、イエスが墓から出るためではない。その上にすわつた 死の象徴である墓石の上に座することは、死に対する勝利をあらわす。

4 見張りをしていた人たち 祭司長たちの意向を受けて墓の番をしていた(27・62〜66)。恐ろしさの余り震えあがつて、死人のようになった 大きな地震に加えて、光り輝く御使いの姿は、彼らを恐れさせるに十分であつた。体が硬直し、気絶したのであらう。死人の番をしていた彼らが死人のようになり、彼らが守つていた死人が死からよみがえつたことは、極めて皮肉なことであつた。

5〜6 恐れることはない 直訳すると「(彼らのように)

あなたがたまで恐れてはならない」。十字架におかかりになったイエス：もうここにはおられない。死者の中にイエスを見出そうとするならば、彼らのようになる。捜す場所はない。よみがえられたのである。直訳は「よみがえらされたのである」（受動態）。動作主は、言うまでもなく神。イエスの復活は父なる神のみわざなのである。かねて言われたとおりに、イエス自身が復活を予告していた（16・21、17・23等）。イエスが納められていた場所を「ごらんささい。御使いは女性たちに、イエスの体がそこにあることを確認させる。しかし復活への信仰は、空の墓という事実だけから起こるものではない。そのため、後にイエスが自身を現してくださるのである。

7 弟子たちにごう伝えなさい。女性たちは御使いから、弟子たちへのメッセージを託された。イエスは死人の中からよみがえられた。「神によつて」よみがえらされた」（6節と同じ）。これこそが教会の信仰告白の礎石<sup>そそき</sup>である。あなたがたより先にガリラヤへ行かれる：26・32参照。イエスもすぐ後で同じことを語る（10）。あなたがたに、これだけ言っておく。以上の言葉が、神からの権威ある啓示であることを強調している。

8 恐れながらも大喜びで。女性たちはなお恐れつつも「非常な喜び」（2・10と同じ）で満たされた。急いで墓を立ち去り。御使いの「急いで行つて」（7）という命令に、その通り応答した。

9 イエスは彼らに出会つて：女性たちへの復活のイエスの顕現は、この福音書のクライマックスの一つである。彼女たちは、復活の主を最初に目撃するという特権にもあずかったのである。イエスのみ足をいだいて拝したイエスが復活されたという事実だけでなく、復活がイエスの言葉と活動とを立証するものであるゆえ、女性たちはイエスを礼拝せずにはいられなかったのである。

10 イエスは彼らに言われた：御使いと同じメッセージを、イエスご自身も女性たちに託した。兄弟たちに、イエスはたびたび弟子たちを兄弟と呼ばれた（12・50、25・40、ヨハネ20・17等）。ここで見落としてはならないのは、弟子たちがイエスを見捨てて逃げた後にもかかわらず、彼らを「兄弟たち」と呼び続けておられることである。ここにも神の大きな愛と赦し<sup>ゆる</sup>が表されている。

参考文献 4月1日分と同じ。

## 聖書

マタイ28・1〜10

## タイトル

永遠の希望と喜び

## 暗唱聖句

もうここにはおられない。かねて言わ

れたとおりに、よみがえられたのである。

マタイ28・6

## 目標

復活のキリストによつて失望や恐れを喜びに変えて頂く。

## 導入

(飯田勝彦)

皆さんは、お葬式に参列したことありますか？

皆さんの中にはおじいちゃんやおばあちゃん、親しくしていた人を亡くした経験をもつ人がいるかもしれません。それは本当に辛くて悲しいことだったでしょう。

今日の箇所にも、悲しみの中に落とされた人たちが出てきます。でも、その深い悲しみが永遠の喜びに変えられたのです。

## 十字架にかかれたイエス様

先週は、イエス様が子ろばに乗ってエルサレムへ入城されたことを見ました。イエス様が、エルサレムに入城されたのは、何のためだったでしょうか？そう、十字架

にかかるためでした。イエス様は、罪に苦しめられていた私たちを自由に、そして幸せにするために、十字架から逃げることをしないで、進んで行かれたのです。

イエス様は、苦しくて残酷な十字架に架かる前にも、顔を背けたくなるような辛い体験をされました。それは、親しい者から裏切られ、多くの人々からバカにされ、鞭打たれ、徹底的に侮辱されたのです。そして最後は、手足に釘を打たれ、頭には茨の冠をかぶせられ十字架に付けられました。イエス様はその十字架の上で血を流しながら、死ぬまで苦しまれたのです。

神様であり、何も罪を犯したことの無いイエス様が、どうしてこれほどまでに苦しまなければならなかったのでしょうか。それは、私たちの罪がそれほど恐ろしいものであるからです。

皆さんは、罪がどんなに恐ろしいものであるかを知っていますか？罪を簡単に見ないでください。罪を心の中に残さないでください。罪はあなたを不幸にします。イエス様の十字架だけが、私たちを罪から解放するのです。

## 墓に葬られたイエス様

イエス様の弟子たちは、イエス様を裏切つて逃げて行

きました。でも、大勢の婦人たちはイエス様の最後を見届けたのです。婦人たちは、今までずっとイエス様を慕い従っていました。そのイエス様が目の前で苦しみながら死んで行く姿を見て、どのような思いだったでしょうか。彼女たちは悲しみのどん底に突き落とされてしまいました。

ヨセフという人が、イエス様の遺体を引き取り亜麻布で包み、墓に納めました。当時の墓は、岩を掘って作った穴で、入り口には大きな石を転がしてふたをしていました。

ヨセフがイエス様の遺体を墓に納めた後、一緒にいたマグダラのマリヤともう一人のマリヤは、墓に残りそこに座ったのです。彼女たちは、悲しみでいっぱいであったに違いありません。また、イエス様を生き甲斐としていた彼女たちは、生きる希望を失ってしまったのです。涙がかかるほど墓の前で泣いたでしょう。

もし、私たちも死んで墓に納められて終わりなら、そこには悲しみと失望しかありませんね。

### よみがえられたイエス様

イエス様を信じる人にとって「死」は、悲しみと失望

で終わりません。なぜなら、よみがえりがあるからです。

イエス様が死んでから3日目に、マグダラのマリヤたちは、イエス様の墓に行きました。すると、大きな地震があり、御使いが現れました。そして婦人たちに「恐れることは無い。あなたがたの捜しているイエスは、ここにはおられない。かねてから言われたとおり、よみがえられたのだ」と言いました。今まで悲しみと失望の中にいた婦人たちでしたが、イエス様がよみがえられたことを聞いて、非常に喜んだのです。そして、それを弟子たちに伝えに行く途中、よみがえられたイエス様に出会うことができました。

### まとめ

このよみがえられたイエス様を心から信じている人は、苦しく悲しいことがあつたとしても、よみがえりの中にある希望と喜びをもって生活することができます。この希望と喜びは永遠に続く恵みなのです。この恵みを頂きましょう。

♪すくいの主イエスに♪

(ホーリネス子どもさんびか 95)

# 聖書 テーマ マタイ5・1～12 さいわいな人

序論

(金井信生)

「幸いとは何か」、これは人によつて違います。ただ、世の中では、物に豊かであることや、生活が安定し、将来が保証されていることを挙げる人が多いでしょう。しかし、イエスがその到来を告げ、私たちを招き入れようとしている「神の国」での理解は違います。それは、心の内面の豊かさです。イエスが語る八つの幸いは、すべて私たちの心を見てのものです。

## 一、「さいわいなるかな」

〈さいわいである〉とは、「幸福（さいわい）なるかな」（文語訳）と、イエスが声を上げられた感嘆の言葉です。今私たちが不幸せだと感じているときでも、主は〈さいわいである〉と断言されます。また、私たちが目指すべき心を取り上げて、ここに向かう者に神の祝福は用意されていると約束されました。

世の中の幸いは、ちよつとした状況の変化で失われた

り、隣の人をもつと多く、もつと良い物を手にすると消えてしまします。しかし神によるさいわいは、どんな状況の中でも決して失われません。次週見るように、移りゆく世にあつてますます輝きを放っていきます。

また、神によるさいわいは、人間の能力にはよりません。ノーベル賞をとれ、お金持ちになれ、運動会で一等を取れと言われても、できる人でない人があり、また能力があつても環境や状況によつて実現できないことがあります。

「神によるさいわい」は、どんな人でもどんな状況でも願ひ求めることができるものです。そして求め始めた時から神の祝福はすでに与えられています。神の国に足を踏み入れているからです。

## 二、弱肉強食ではなく敬天愛人

「神の国」は地上で目に見える形で現れるものではなく、神に治められる人の心の中に実現し、周りにその存在を知らせ、また広がっていくものです。

「山上の説教」は「天国憲法」とも言われるように、神の国における生き方の基本が示されています。世の中

が「弱肉強食」、弱い者が強い者に食い荒らされている世界とすれば、神の国は「敬天愛人」、神を畏れ敬い、隣人を愛することが満ちている世界です。

イエスの説かれる八つの幸いは、山上の説教の最初に置かれ、この後の実践的な歩みを支える教えです。神によるさいわいを求める者は、この世では悩み苦しみます。御言葉への疑いを抱くことも起こってきます。その時にいつも立ち帰ってくる祝福の宣言と約束がここにあるのです。疑ったり悩むことはあっても、その時に基準として神の前に立っていたか、神の方に向いていたかを確認し、また立ち上がらせていただくことができるのが、八福の教えではないでしょうか。

### 三、心の清い人

今日の暗唱聖句は、八つの幸いの中で六番目の言葉です。

「心の清い」とは、神様に向かってまっすぐで、他の方に向いていない姿です。自分の心を調べてきれいか汚いか判断し、自分の中で完結したり満足するものではありません。神に心に向いているかどうかということです。

神が清さの原点であり、目標です。自分のもつ清さを基準にしたり目標にすると、いい加減なところで手を打ったり、反対にいつまでも不安をかかえたままです。あるいは清さを人と比べたり人を裁いたりします。

「人は外の顔かたちを見、主は心を見る」（サムエル上16・7）のですから、キリストの十字架によってすべての罪が赦され、心が清くされる恵みを信じて、ただ神の前に自分を置きましよう。

清くされた心をもつて見ていくと、世界が変わります。嫌いだと思っていた人、受け入れられないと思っていた出来事も、神の愛する者、神の手の中にある事として受け入れることができます。生活の端々に、神のお姿やお働きを見ることができるようになります。（心が清い）ことのすばらしさを知り、なおキリストにある清さに歩みましよう。

### 結論

キリストは、私たちの心を清め、神に向かう者、生活の中で神を見る者としてくださり、いつも共にいて励ましてくださっています。主イエスの導きに従いましよう。

## 研究資料

(宮澤清志)

この箇所は、「山上の説教」と呼ばれている。この「山上の説教」についての概要は、紙幅の都合で4/22の研究資料の冒頭に記してあるので、そこを参照していただきたい。

## テキスト

1~2 この箇所は、次の節より始まる「山上の説教」の舞台を説明している。実は「彼ら」(2)が誰を指すかは不明である。弟子たちがみもとに近寄ってきた、とあるので第一義的には弟子たちであろう。しかし、山上の説教の末尾に「群衆はその教えにひどく驚いた」(7・28)とあることから、この教えは群衆たちに対しても語られたものであろうと推測されている。

3~10 この「山上の説教」は、いわゆる「八つの幸い」をもつてはじめられている。註解者によつては11節を入れて「九つの幸い」と数える人もいる。これらの箇所は「幸いです」(マカリホイ)という言葉をもつてはじめられている。

この「幸い」とは、ただ単に今は幸いであつたとしても次の瞬間には不幸になるかもしれない、という人間の感情的幸いを述べたものではない。どんな状況の中でも決して失われな

い幸い、神の祝福の事実を語っているのである。

3 **こころの貧しい** 貧しい(ギ)ブトーコイ)とは、必要なものが不足している状態を指している。生存に必要なものが不足していることを示唆していると考えられる。この言葉の背後に、イエスはイザヤ61・1、66・2を念頭において話されたのであろう。すなわちこの貧しさは、「心の打ち砕かれた者」という意味であり、神のあわれみに完全に依り頼む人々を指す言葉であろう。なお、マタイには **こころの** という言葉が挿入されているが(ルカにはこの言葉はない)、この言葉は「物」に対する「心」という意味ではなく、ある状態や性質を表す言葉であり、この箇所では「心の貧しい状態」を指す言葉である。

4 **悲しんでいる人** とは、第一の幸いである「心の貧しさ」ということを詳しく説明するものとして考えることができる。しかし、それに加えて、マタイのこの「悲しみ」とは、非常に強い悲しみを指す言葉であり、この言葉は、新約聖書では「自分の罪を悲しむこと」という文脈の中で用いられている(Ⅰコリント5・2、Ⅱコリント12・21、ヤコブ4・9)。罪に対する悲しみは、感傷的な悲しみではあり得ない。そして、この悲しみの人が必要とするものは **慰められる** ことなの

である。もちろん、ここでの主語は神ご自身であり、神が与える慰めのことである。

**5 柔和** (ギブラウス) 柔和の日本語としての意味は「優しくて穏やかなこと」である。しかし、日本語の響きを持つような弱々しさではなく、モーセ(民数記12・3)やイエスの特質(マタイ21・5)のように、内側には徹底して神の御旨に従う者の強い姿をもっている(詩篇37参照)。

**6 義** この言葉は、ルカの並行記事には欠けている(ルカ6・21)。しかし、マタイはこの語を「神の義」という意味合いでここに入れたと考えられる(6・33参照)。この言葉は、山上の説教やマタイ全体を理解する鍵となる言葉の一つである。ユダヤ教の「義」とは、人間が神に向かつて立てる「義」である。一方、新約の「義」とは、神が人間のために備えられた「義」である。神がキリストを通して人間に備えて下さる救いを、渴望し待ち望む人の幸いを告げる言葉なのである。

**7 あわれみ** 日本語のあわれみは、いわゆる「同情」というような、感情的な色彩の強い言葉である。しかし、ギリシャ語のあわれみとは、はらわた痛むほどの神の愛であり、隣人に対する具体的な行動を示す愛である。

**8 心の清い** この「清い」とは、道徳的宗教的意味の純潔

ということではなく、「ただ主を求める」また、「その魂がむなしい事に望みをかけない」という意味である。この反対は「二心」(詩篇24・4と5、ヤコブ4・8)である。

**9 平和をつくり出す** この言葉は動詞形を含めても、こことコロサイ1・20にしか登場しない珍しい言葉で、併せて吟味すると、「真の平和をつくり出すことは、神の子イエスにおいてのみ可能である」ことが理解できる。しかし、御国の民は、まず、キリストを通して神との平和をいただいた者たちである(ローマ5・1)。だから平和をつくり出す者とは、「このキリストによる平和をいただいた者たちが、その平和を隣人にもたらしように努力する」ということであろう。

**10と12** 最後の幸いを述べる。真の迫害とは、「義のため」(10)、「わたしのため」(11)の迫害でなければならぬ。人に与えてしまったつまずきに対して非難されたからといって、それを「迫害」と言うことはできない。しかし、真の迫害にあった人々には、天において受ける報いがあるというのである。それゆえに、信仰者における真の迫害は、喜ぶべきことなのである。

**参考図書** 中澤啓介「マタイの福音書註解」(いのちのことば社) 他

## 聖書

## タイトル

## 暗唱聖句

マタイ5・1〜12

本当に幸せな人

心の清い人たちは、さいわいである。

彼らは神を見るであらう。

マタイ5・8

## 目標

キリストにより心をきれいにされて、神を見る者となる。

## 導入

(飯田勝彦)

「GNH」って何だか知っていますか？これは英語の「グロス・ネイショナル・ハッピネス」を短くしたものです。意味は、国民総幸福量と言います。簡単に言えば、幸せの量を表すものです。皆さんは、自分がどのくらい幸せか考えたことがありますか？また、どのようにしたら幸せになれるのでしょうか。お金があったら、家があったら、食べ物があつたら、勉強が良くてきたら、または有名人になったら・・・？

みんなが思っている幸せと、イエス様が言われる幸せは、同じだと思えますか？

## イエス様の大切なお話を聞こう

イエス様は、神の独り子で、聖いお方でしたが、パプテスマのヨハネから洗礼を受けられました。すると天から「これは、わたしの愛する子。わたしはこれを喜ぶ」と、父なる神様からイエス様に声がかかりました。これは、イエス様が王であり、私たち人間を救う「救い主」であることを神様が認めたということです。

イエス様は、神様の素晴らしい恵みを受けられました。しかしその後、イエス様は悪魔の誘惑にあわれたのです。でもイエス様は、悪魔の誘惑の言葉に惑わされることなく、神様の言葉によつて勝利されました。皆さんの周りにも、多くの誘惑がありませんか？でも、その勝利の鍵は、イエス様がもっていることを知ってください。イエス様から力を受けるなら、必ず悪い者から守られます。神様からの恵みを受けたイエス様は、多くの病人を癒され、人々から注目をされていました。ですから、イエス様が行かれる所にはいつも大勢の人たちが集まって来ているのです。

ある時、イエス様は山に登って大切なお話をされました。多くの人たちは、耳を澄ませてそれに聞き入ったの

です。今の時代にも、良く聞く人はイエス様から恵みをいっぱい受けることが出来ます。是非、イエス様の言葉に耳を傾けてください。

### イエス様に心を清くして頂こう

イエス様の周りに集まった多くの人たちに、どのような人が幸いな人なのかをイエス様は教えられました。また、イエス様は皆さんに幸せになつてもらいたいと願ってお話されたのです。イエス様は、八つの幸せを示されましたが、その中の一つが今日の中心聖句「心の清い人たちは、さいわいである。彼らは神を見るであろう」です。

皆さんは、これを聞いてどのように思いますか。イエス様の言われる幸せと、皆さんがイメージしている幸せと同じでしたか。

イエス様が一番興味を持たれるのは、皆さんが何かできる、できないという能力ではありません。イエス様は、皆さんの「心」に関心をもっておられます。皆さんの心は清いでしょうか。清いとは、罪で汚れていないことです。もし、罪で汚れているなら、心が罪で支配されています。罪は、私たちの人生を苦しみと悲しみで悩ませて

しまう、とても恐ろしいものです。

小学5年生の武志君は、クラスの中でも勉強もスポーツもできる優秀な子どもでした。でも、武志君はいつも独りぼっちでした。それは武志君が、自分より勉強やスポーツができない友だちをバカにし、いじめていたからです。それとは反対に、美里ちゃんは勉強もスポーツも苦手です。でも、心の優しい彼女は多くの友だちから好かれる人でした。それは、美里ちゃんがイエス様を信じて心を綺麗にして頂いていたからです。

美里ちゃんは、神様は目には見えないけれど、いつも共にいてくださることを信じていました。そして、神様が友だちを愛されているように、美里ちゃんも、多くの友だちを神様の愛で愛する人に変えられたのです。

### まとめ

イエス様を心に迎える時、イエス様は、皆さんの心を清くしてください。そして、どんな時でも神様を認める人に変えてください。イエス様によって、本当に幸せな人にされましょう。

♪よろこびはわがここに♪

(ホーリネス子どもさんびか 132)

# 聖書 テーマ マタイ5・13・16 地の塩・世の光

## 序論

(金井信生)

「地の塩・世の光」とは、イエスが世に提示している  
クリスチャンの存在を表します。

## 一、キリストの誇り

イエスは弟子たちに「地の塩、世の光」になりなさい  
と言われたのではなく、すでに「地の塩、世の光である」  
とおっしゃられました。

これはイエスの言葉に従う私たちを、大いに尊んでお  
られる言葉です。

「給料(サラリー)」の語源が「塩(ソルト)」である  
ように、古代では塩は貴重なものです。また「光」も庶  
民は特別なときでなければ手にしません。聖書でも花婿  
を迎えるときや貴重な物を探するとき、わざわざ「あかり  
を手にして、つけて」と記しているほどです。今のよう  
に塩も光も当たり前の時代ではありません。

塩として、光として、どう生きるべきか考える前に、

素直にまず、キリストが私をすでに認めてくださり、こ  
んなに尊んでくださっていることを喜びましょう。

そして、どうでもいい者ではなく、この世に欠けては  
ならない存在として、自分に何が期待され、託されてい  
るのか、主の言葉に聞き従いましょう。

## 二、地の塩の存在

「塩」が尊ばれたのは、塩にしかできない働きがある  
からです。

まず、食べ物を保存し、腐敗から守ります。魚や肉や  
野菜など、塩を用いて保存し、収穫の無い時に備えるこ  
とができました。科学的な知識の乏しい頃から、塩には  
汚れたものを退け、清く保つことが知られていました。

クリスチャンも、この世を清く保つために置かれてい  
る存在です。それも「地の塩」とあるように、高いとこ  
ろに飾っておくのではなく、周囲に溶け込んで姿を失い  
ながら、なお塩気を失わないでいるのです。神から離れ  
て汚れ乱れやすいこの世にあつて、流されることなく、  
神の清さ正しさに立つていくことです。

また、塩は食べ物に味をつけます。世界の歴史の中で、  
文学や芸術、医療や福祉、教育や科学など、さまざまな

分野にクリスチャンが大きな影響を与えてきました。人の持つ能力や賜物を引き出して、世の中を良くしたり、人生に彩りを与えることができるのです。

あるいは、塩気があることによって水を求めるということにもつながります。生けるいのちの水であるキリストを求めるよう導く務めも、弟子の大きな働きです。

### 三、世の光の輝き

「光」も尊い存在です。また塩に比べると、より積極的な働きを表しています。

神ははじめに「光」を造り、今も世界を照らしておられます。ただ、神の光が届いていないのが、人の心の中であり、この世の中です。

イエスは「わたしは世の光である」（ヨハネ8・12）と名乗られます。神の存在を思い起こさせ、神のもとに立ち帰らせるための「命の光」です。か細い光、仮の光ではない、永遠にわたる光の源そのものがキリストです。

この方からクリスチャンは、「世の光」として任命されました。自分では光ることができない私たちですが、内にキリストをもち、またキリストの光に照らされ続け、命の光を世に輝かせる者とならせていただいています。

す。

イエスは、私たちを世の光として（山の上にある）、〈燭台の上において〉と表現されました。

光が大きい小さいかよりも、ゆるがない大きな存在に支えられているから、持っている価値を発揮することができます。

塩気を与えてくださる神、私たちを命の光をもって照らし、この世に掲げてくださっている主がおられます。塩や光は、この大きな存在を世に示すためです。人々があなたがたのよいおこないを見て、天にいますあなたがたの父をあがめるようになるために、私たちは先に主の救いにあずかりました。主に尊ばれ、用いられていることを喜び、私が今ここに生かされているのは、主から託された使命を果たすためですと、喜んで主の恵みに歩みましょう。

### 結論

地の塩、世の光と評価されていることを喜び、主の恵みによってますますその務めを果たしていきましょう。

## 研究資料

(宮澤清志)

今週も、「山上の説教」の、しかもしばしば開かれる良く知られた箇所が取り上げられている。今週の箇所に入る前に、先週の研究資料の冒頭に記したように、「山上の説教」全体の考察に少しふれておきたい。

まず、この箇所の並行記事としては、ルカ6・17と49をはじめ、ルカによる福音書の中に断片的に登場する。これらはよく「平地の説教」（ルカ6・17）といわれるが、この2つの記事が同じであるか違いがあるかはここではあまり問題ではない。しかし、それぞれの並行記事には目を通していき、説教の参考にしていただきたい。

次に、「山上の説教」全体の構造であるが、これには註解者によっていくつもの考え方が指摘されている。よって一つの参考として考えていただき、説教準備の一助としていただきたい。①天の御国の市民の特色（5・1と16）、②イエスと律法（5・17と48）、③宗教生活（6・1と18）、④真の信頼（19と34）、⑤他者との関係（7・1と12）、⑥二つの道（13と27）、である。

最後に、この「山上の説教」は、様々な解釈が施され、

「これは教職者のために意図されたものである」、「この文書は人が従うために意図されたものではなく、人間の罪深さを指摘するための書である」、「この文書はある特定の時代の中で従うように意図された文書である」、などと言われている。ある学者は、なんと36通りの解釈が存在すると指摘している。この箇所を「神の国の大憲章（マグナ・カルタ）」と呼ぶ者もいるように、この説教を通して神の国の倫理に生きる者とされたい。

## テキスト

**13 あなたがたは、地の塩である** この語は、後述する並行記事には登場しないマタイ特有の言葉である。ギリシャ語の語順も、**あなたがたは** が冒頭に置かれており、強調して「あなたがたこそ」と訳すべき言葉である。また、**地の塩である** にも注目したい。これは「塩にならなさい」という命令ではなく、約束の言葉でもない。天の御国の民は、すでに「塩」となっているのである。もし**塩のききめがなくなったら**… この文は、並行記事としてマルコ9・50とルカ14・34と35にも登場する。ききめがなくなるとは、直訳すれば、「愚かになる」という意味である。一般的に、塩の効能としては、「腐敗を防ぐ、清める、味付けをする」等、様々な効

能があるとされている。塩には少なくとも11の役割があると指摘する学者もいるが、殊更ことさらににその中のどれかを強調し、聖書に読み込むことはあまり意味がない。この箇所はそのすべてを網羅もうらすると考えられる。同時に塩には保存作用がある。

クリスチャンもこの世界が腐敗して破滅するのを防ぐ働きが求められているといえる。しかし、もしこの塩が、塩としての価値がなくなり、ただの塊になってしまったら、ただ外に捨てられて、人々に踏みつけられる ということである。すなわち役に立たないものとして破棄される、ということである。

**14 あなたがたは、世の光である** 前節同様、ここでも **あなたがた** が強調された文体となっている。**世の光** ここでいう「世の光」とは何だろうか。マタイの語る「世の光」とは、この山上の説教の直前の「暗黒の中に住んでいる民は大いなる光を見、死の地、死の陰に住んでいる人々に、光がのぼった」(4・16、イザヤ9・2の引用)のみ言葉のイメージを持っているのではないかと考えられる。そしてこのイザヤ書のみ言葉は、イエスによって成就したと考えているのであろう。とすれば、マタイの「世の光」の理解は、まず第一には、本来イエスご自身を指す言葉であらう。しかし、マタイはここで「あなたがたは」と付け加える。それは、キリス

ト者は、何らかの努力によって、自らが「世の光」となるということではない。キリスト者が「世の光」であるのは、この「わたしは世の光である」(ヨハネ8・12)と語られるお方を内に宿すことによって可能なのである。

**15** この箇所についてはマルコ4・21、ルカ8・16、11・33に並行記事がある。**柵の下におく** ランプを消す時、吹き消すと煙けむって臭いから柵をかぶせて静かに消したそうである。この事から、通常考えられている「愚行」という面と、「輝いている火は消してはならない」という両面が考えられる。いずれにしても、キリストの光をいたたいっている私たち自らが、その光を消してはならないことを語っていると見ることができ

**16 あなたがたの光** ここでの「光」とは、自らを光と語られた(ヨハネ8・12)内住のキリストのことである。キリストを信じ受け入れた時、キリストの光を内に宿すのである。

**輝かし** 日本語の響きからは、人間の側で頑張つて良い行いをするという意味に理解できそうであるが、より原文にふさわしく訳すと「光は輝けよ」「光に輝いていただけ」という訳となる。ここで大切なことは、人間の側では自然に輝く光を覆い隠してはならない、ということである。

参考図書 4月15日分と同じ

## 聖書

マタイ5・13～16

## タイトル

地の塩、世の光

## 暗唱聖句

あなたがたは、世の光である。

マタイ5・14

## 目 標

地の塩、世の光として生きる。

## 導入

(飯田勝彦)

春になり、太陽の日差しが暖かくなりました。皆さんは、日向<sup>ひなた</sup>ぼっこやお昼寝をゆつくり、したくなりませんか。学校で、お昼からの授業は、半分目が閉じてしまう人もいるかも知れませんか。

先週に続き、今日の箇所もイエス様が弟子たちを中心に大勢の人たちに大切なお話をされたところです。今日、イエス様が皆さんに願っておられることがあります。

## 天の父があがめられるように

皆さんは、友だちなどに紹介したいものつてありますか。それは、大好きなお父さんやお母さんかも知れませんが、仲良しの友だちかも知れません。または、飼っているかわいいペットかも知れません。もし、皆さんが紹介したものを、友だちなどが皆さんと同じように喜んでくれたらどうでしょう。

か。それは、嬉しいですよ。

イエス様は、天の父なる神様と親しく交わり、神様の素晴らしさをよく知っておられる方です。そのイエス様は、もっと多くの人に神様を知ってもらいたいと願っておられます。そのために、弟子たちや大勢の人たちを用いようとしたのです。

今朝イエス様は、皆さんにも同じ願いをもっておられます。それは、皆さんを通して天の父なる神様の素晴らしさを多くの人たちに知ってもらいたいということです。そのために、イエス様は皆さんを用いたいと願っておられるのです。

皆さんは、私たちを愛して、いつも共にいてくださる素晴らしい神様を知っていますか。知っていたなら、多くの人に神様を知ってもらいたいと思うでしょう。

神様を信じるクリスチャンは、まだ神様を知らない人たちが「神様って本当にいるんだね」、「神様って素晴らしいね」と神様を信じられるように、特別に選ばれた者なのです。

## あなたは地の塩です

イエス様は、弟子たちに「あなたがたは地の塩です」と言われましたが、これと同じことを皆さんにも言われます。塩って皆さんがよく知っているもので、毎日食べているものです。

でも、塩だけを食べる人はいるでしょうか。「今日の朝ご飯は塩だったよ。塩は美味しいね」っていう人、聞いたことがありますか。

塩は多くの場合、料理の調味料などに使われます。塩気のない料理は、食べても美味しくありません。皆さんも自分の好みで塩を振ることがあるでしょう。でも、塩がメインではありません。塩は、料理を引き立たせる縁の下の力持ちのようなものです。塩は溶けてこそ、その力を発揮します。

また、お正月で食べるかずの子などは、たくさん塩が使われています。塩は、物が腐敗することを防止するために使われます。

イエス様を信じるクリスチャンは地の塩なのです。それは、生活の中で周りの人たちを支え、守って行く役目があるからです。大切なのは、皆さんが地の塩とされていることを信じていることです。

### あなたは世の光です

イエス様は「あなたがたは世の光です」と言われました。もし、光がなかったらどうでしょうか。周りは真っ暗で、学校や教会に行くのも大変です。でも光があれば、つまずくこともぶつかることはありません。また、光があれば洗濯物は

よく乾くし、電気も作れます。そのように光とは、私たちの生活には欠かせないものです。

でも、光は私たちの心にも必要です。真っ暗な心だと苦しく、人をも傷つけ、暗い人生を送らなければなりません。私たちの心を照らし、救いへと導いてくださるのがイエス様です。イエス様は「わたしは世の光です」と言われました。光であるイエス様を心に迎えている人は、人々に希望と救いを指し示す永遠の光を持っています。また、光であるイエス様によって輝いて生きることが出来ます。その姿を通して家族や友だちがイエス様を信じ、「神様って本当に素晴らしい」と告白できたら、感謝ですね。

### まとめ

今、多くの人たちが神様を知らずに、心が暗くなっています。そのため悲しい人生を歩んでいます。そんな中でイエス様は、多くの人たちが神様の素晴らしさを知るために、イエス様を信じる皆さんを地の塩、世の光としてくださいます。地の塩、世の光として歩めるようイエス様に祈りましょう。

♪ ひかり ひかり ♪

(ホーリネス子どもさんびか 109)

# 聖書 テーマ マタイ5・17-32 内面の義

## 序論

(金井信生)

イエスは「律法を成就（完成）する者」として来られました。律法そのものが間違っていたり、不足していたのではありません。ただ、律法を受け取った人間の側で、正しく受け止めず、また実行する心がなかなか伴わなかったのです。

## 一、律法の意味

律法は、神が定めて人に与えられたものです。〈一点一画もすたることはなく、ことごとく全うされる〉とイエスの言葉にあるように、完全なものです。

律法が与えられた目的は、神の国に入り、そこに生きるための義を示すものです。ですから、律法はアブラハムではなく、モーセに与えられました。エジプトから救い出された民が、これから神の民として歩んでいくためです。

また、神の民に与えられたということは、個人的に義を追い求めるだけでなく、お互いの人間関係の中で、神の定められた義を全うしていかなければならないということです。

す。

「義」とは、基準と考えることができます。神がご覧になってよしとされるかどうかです。

この「神がご覧になる」というところを、人間はしばしば取り違えて、外に現れる行いに求めてしまいがちです。しかし、神がご覧になられるのは、私たちの心です。つまり、神の義とは、私たちが何かをすること、しないことではなくて神の前に正しい態度をとっているかどうかなのです。

イエスが〈あなたがたの義が律法学者やパリサイ人の義にまさっていないければ〉と言われたのは、善行の競争をしなさいと言われたのでありません。律法学者やパリサイ人が、神の前よりも人の前で正しくあることばかり求めていたことに對して、別の生き方を目指しなさいと勧められたのです。

## 二、律法を超えて

律法学者やパリサイ人に代表されるユダヤ人は、律法を外面的にとらえました。しかしイエスは、外に現れる行動の前に、心の内にある動機を探られます。

手を出さなくても、心の中に憎しみがあふれかえってい

たら、それは神の尊ぶ存在を否定することにおいて、殺すことと同じ罪なのです。

情欲の思いで異性を見るなら、それは心を向けるべき方向が間違っている点で、**姦淫**の罪を犯しているのです。

行動に現れていなければ、人には知られないかもしれないかもしれません。しかし、神の前に心の内はすでに罪であり、神の定める基準に達していません。

この律法の光に照らしてみれば、どんな人も自分の罪を認めざるを得ません。また心の中まで裁かれるとしたら、だれも正しくあり得ないことが明らかです。

そこで罪に絶望する時に、律法を与えられた神に立ち帰らなければなりません。かつてパリサイ人の一員だったパウロは、キリストに救われてから、律法は「キリストに連れて行く養育掛」(ガラテヤ3・24)であることがわかりました。

律法を自分流に理解するだけで神に近づこうとするのは不可能であり、キリストを拒むことです。自分の罪と無力さを自覚し、キリストによって神の前に立たせていただくことが律法の目的です。

### 三、心に義をまっとうされる方

〈祭壇に供え物〉をささげるのは、神に近づくためです。

その時に〈兄弟が自分に対して何かうらみをいだいていることを、そこで思い出したら〉、どんなに立派なささげものを用意していても、それを持っていく当人が神の前にふさわしくないとイエスは言われます。

こちらは何とも思っていないくても、向こうが私を恨んでいることを知っていたら、先手を打ってこちらから仲直りし、得た和解を神のもとに携えてきなさい、それこそ神が最も喜ばれるささげものだといエスは教えられました。罪人であった私たちのためにひとり子を与えて和解の道を開いてくださった神の心にいちばん近いからです。

律法は神の御心そのものです。イエスが律法を成就すると言われたのは、御自身がするように生涯を送られただけでなく、私たちと共にいて御心になう歩みに導くためでした。

### 結論

私たちは行いにも心にも罪をもっています。キリストによって罪赦され、心の内まできよめていたでいて、神の民とされた幸いに生きましょう。

## 研究資料

(宮澤清志)

先週の研究資料の冒頭に記したように、本日の箇所を中心テーマは「イエスと律法」ということであり、イエスにとって、律法とは神のみことろであり、神の教えであり、また神の恵み深い導きである、ということである。

## テキスト

17〜20 イエスはまず、ご自身の来臨の目的を、律法や預言者を成就するために来たという(17)。そのうえで、この後語られるイエスと律法との関係に関する誤解を避ける意味で、イエスはこの箇所の言葉を語られたのである。

**律法を廃する(17)** この言葉はマタイの別の箇所では「くずされる」(24・2)、「こわす」(26・61)などと訳される言葉であり、律法を無効なものとして扱うという意味である。成就する(キブレーローサイ)「完成する」という意味に訳す人もいる。形だけでもっともらしく実行している人たちと違って、徹底してその精神を満たすところまで行い抜く、という意味が背後にある。**律法の一点、一画** 一点とは、ヘブル語の中の一つ小さな文字であり、一画とは、ヘブル語の文字の角の部分を表す。いずれにしても、律法の中のどんな小さな

部分もすべてがそのまま残るという意味。

**あなたがたの義が：(20)** この部分をどう理解するかは、

私たちの頭を悩ませる箇所の一つであろう。**律法学者** とは、律法を解釈し、教え、法廷で裁判を行う人々であった。一方、**パリサイ人** とはその律法を厳格に守ろうとした人々であった。では、彼らにまさる義とはどのような義、天国にはいる義とは、どのような義なのであろうか。「義」という言葉はマタイにとっては大きな関心事であったと推測される(「義」という言葉はマルコ0回、ルカ1回に対して、マタイは7回用いられている)。この箇所の意味は、律法学者・パリサイ人の義とキリスト者の義とを量的に比較して、またはある水準を設定して論じているのではない(23章参照)。「義」とは、人間の、神の前における正しい態度を指す言葉であり、マタイにおいては特にその態度が、その人の生き方においても主の前にも認められなければならないと説くのである。

**21〜26 殺すことについて** 「殺すな」(21a)という律法は、出エジプト20・13に存在する。

**21 殺す者は裁判を受けねばならない** この言葉は、直後の「といわれていた」とも語られるように、ユダヤ人の口頭伝承であろうと考えられる。**裁判**(新改訳では「裁き」) 地

上での裁判のことか、おわりの日の裁きのことかは不明。

22 旧約律法における秩序に対して、神の国の真の秩序をのべる。**兄弟** ここでは同胞のユダヤ人を指す言葉のようである。しかし、もちろん狭い意味の同胞を指すのではなく、人間一般をさす言葉であろう。**怒る 愚か者 ばか者** これらを様々に解釈することも可能であろうが、基本的には同じ意味であろう。

23 26 神の国の律法理解は、更に進んで「和解」を促す律法理解へと導かれる。しかも、この箇所で行われていることは、相手方が自分に対して反感を持っている場合(23)であり、前節までの事柄からは更にハードルが上がっている。しかも、その事柄に関する和解は、礼拝に先立つのである(24)。**24 まず行って** 和解の努力を何にもましてするように、という勧めの言葉。

26 **コドラント** ルカの並行記事には「レプタ」とある。いずれにしても、貨幣の最小単位であり、どんなに小さな負債であつても、という意味。

27 32 **姦淫<sup>かいいん</sup>について** 「姦淫するな」(27a)という律法は、出エジプト20・14に存在する。

28 **見る** チラツと見る、見える、という意味よりも、むしろ

ろ、じつと見る、というニュアンスである。みだらな思いをもつてじつと見る、自らの意志が既に働いていることを示す言葉である。

29 30 前節において、イエスは姦淫を、人間の罪の性質や心の中の問題であると解釈した。同時にこの節においては、その解釈をさらに発展させて、このような罪を犯させるものを捨てるようにと語られた。ここにはイエスの罪に対する断固とした態度が示されており、特に旧約時代より続く預言者の戦いを継承するイエスの姿が垣間見える。**捨てる**(29 30)直訳は「切り離し、投げ捨てる」こと。非常に厳しい言葉である。

31 32 **離婚に関して** 註解者によってはこの箇所を新しい段落として取り上げる人もいる。しかし、姦淫の律法を扱っているという点では前節までの流れの中で理解することもできる。

31 **妻を出す者は離婚状を渡せ** 申命記24・1による。当時のユダヤ社会は、男性のみに離婚する権利が認められていた。

32 **不品行** 婚前ないし結婚後のあらゆる性的な不法行為を指すものと思われる。

参考図書 4月15日分と同じ

## 聖書

マタイ5・17～32

## タイトル

形だけじゃなく、心をきれいに

## 暗唱聖句

兄弟に対して怒る者は、だれでも裁判を受けねばならない。 マタイ5・22

## 目標

内面の罪を知り、キリストによつて心の内をきよめて頂く。

## 導入

(飯田勝彦)

新しい年度に入つて、もう一ヶ月が過ぎようとしています。今年、一年生になった人は、もう学校に慣れましたか？また、学年が上がった人たちは、新しいクラスで楽しくやっていますか？

今、皆さんは学校の授業で新しいことをいろいろ教えてもらっているでしょう。学校の先生は、皆さんに多くのことを知ってほしいと一生懸命、教えて下さっていると思います。

イエス様は学校の勉強よりもっと大切なことを教えてください。それは、決して難しいことではなく、皆さんが幸せになる秘訣なのです。

## イエス様が求めておられること

私たちは2週続けて、イエス様が弟子たちを中心に大勢の人たちを教えられたことを見ました。イエス様がどのようにに教えられたか、思い出して見ましょう。「心の清い人たちは、さいわいである。彼らは神を見るであろう」とか、「あなたがたは世の光である」と教えられました。これは今、生きている皆さんにも言われていることでした。イエス様は、皆さんが清い心を持ち、神様を見る者であつてほしいと願っておられます。また、皆さんがイエス様の光を多くの人たちに示し、神様が素晴らしいことを表してほしいと願っておられます。

そして今日、イエス様は、皆さんが神様の前に正しく生きてほしいと願っておられます。

皆さんは十戒を知っているでしょう。これは、神様の前に正しく生きて行くためのルールです。

十戒には「人を殺してはならない」、「盗んではならない」などがあります。もし、これを破ったら人は互いに傷つけあうことになり、幸せに生活することが出来なくなります。それどころか、十戒を破る人は罪人であり、神様の裁きを受けなければならないのです。

確かに、昔の律法学者やパリサイ人たちは、神様とのルールを真剣に守ろうとしました。でも、形式だけになっ  
てしまっていたのです。

イエス様は皆さんに、律法学者やパリサイ人たちのよ  
うな形だけの生き方にならないようにと願っておられま  
す。

### イエス様は、心を見られる

皆さんは、毎週教会学校に来て神様を礼拝しています。  
これは本当に素晴らしいことです。でも、もし身体は教  
会学校に居ても気持ちがそこになかったら、形だけの礼  
拝になってしまいます。それは、神様に喜ばれること  
でしょうか。

神様は「殺してはならない」と言われました。皆さん  
は人を殺してはしないでしょ。でも、兄弟ケンカをして  
「お兄ちゃんなんて、いなくなってしまうばい」とか  
心の中で思ったなら、それは人殺しをしたことになる  
イエス様は言われます。

イエス様は、私たちの心の思いを見られるのです。い  
くら外側がよくても心の内が汚れているなら、神様の前  
に正しく生きることができません。もし、心に殺意など

があるなら、それが言葉や行動になって出てきます。

ですから、神様の前に正しく、幸せに生活するために  
は、心がきよくなければいけません。皆さんの心はどう  
ですか。心の中でたくさん罪を犯していませんか。心の  
中を神様や人に見せることができますか？

### イエス様は心をきよめてくださる

私たちは、だれも自分の心をきよめることは出来ませ  
ん。それができるのはイエス様だけです。

イエス様は、私たちの心の罪、汚れを取り除き、神様  
の前に正しく生きることができるようになってくださいま  
す。それは、十字架と復活によつてです。私たちの罪の  
ために十字架で命を投げ出され、三日目に復活されたイ  
エス様を救い主として信じ続けましょう。そうすれば、  
私たちの心はきよくされ続けて行くからです。

### まとめ

イエス様によつて心がきよくされた人だけが神様の前  
に正しく生きていくことができます。形だけではなく、  
心をきれいにされましょう。

♪じゅうじか わが力♪

(ホーリネス子どもさんびか 115)

# 聖書 出エジプト20・1～17 テーマ 十戒（神との関係）

## 序論

（高橋頼男）

十戒は、人間がどう生きるべきであるかについて十の戒めが記されたものです。前半の四つと、後半の六つがあります。前半は神との関係について、後半は人との関係についての戒めから成っています。この十の戒めは、神の前に生きる人間の真に幸いな生き方についての指針です。

## 一、神との正しい関係に生きる

人間は「関係」の中で生きるものとされています。一人で生きているのではなく常に他者との関係の中で生きています。そして、この他者との関係がどうであるかが幸いな生き方のポイントになってきます。実際、私たちは他者との関係がうまくいっているとき幸いを実感し、その関係がぎくしゃくするならしんどい生き方を強いられます。

人間の関係には、人との関係の前に神との関係があります。神は愛をもって私たちを創造し、生かし導いてくださっています。このような神がおられるなら、このお方を無視して私たちの幸いな生き方はありません。真に幸いな生活を願うな

ら、まず、私たちの創造者である神を認め、このお方の前に真実なあり方、生き方が問われなければなりません。創造主との正しい関係を持ち、その関係がふさわしく豊かにされていくなら、創造主の前に被造物である人間は本来あるべき姿で、本当に豊かで幸いな生き方に導かれていくのです。

## 二、神を第一として生きる（3）

（わたしのほかに、なにものをも神としてはならない）との第一戒は、神との関係において最も大事な事項で、すべての戒めの根幹をなします。人生は「わたし」が中心ではなく、「わたし」が人生の目的でもなく、まして「自己実現」（神を認めない人々の最高の生き方とされている）が人生の目的ではありません。また、自分の幸せや目的のために神を利用することも間違っています。

（真に人生を問うなら、まず、純粋に神から始めなければなりません。なぜなら神がわたしを造られたからです。私たちは自分で自分を造ったのではないので自分が何のために造られたのか、何のために生きているのか分からないのは当然です。人生を自分という間違った出発点から始めるなら人生に意味を持つことは出来ず、造り主である神から出発する時、私たちの人生は真に意味を持つものとなるのです）（リック・

ウォレン著『人生を導く五つの目的』21～24頁、高橋による要約)。「御子によって造られ、御子のために造られたのである」(コロサイ1・16)。

### 三、神に<sup>あな</sup>贖われた民として生きる(2)

私たちは神によって創造された者であるだけでなく、また、神によって贖われた民です。(わたしは…あなたをエジプトの地、奴隷の家から導き出した者である)と言われているように、この戒めは、神の力強い御手でエジプトから贖いだされた神の民イスラエルに対して命じられています。神に造られ愛され祝福された人間が、神の戒めに背いて罪を犯し、さばきに服するものとなりました。しかし、神はそのような人間を憐れみ、愛をもって人間の罪を贖い、救い出してくださいました。神は大きな愛をもって罪と死と滅びの中にあり、肉と世とサタンの支配にあつたものを御子の犠牲によって贖ってくださいました。贖われた者は贖ってくださった方のものです。しかも、そのために驚くほどの大きな愛と犠牲が支払われたのです。そして、その方の愛のもとに生きるものとされました。そのような大きな愛を覚える時、自然に私たちの生き方が定まります。「彼がすべての人のために死んだのは、生きている者がもはや自分のためではなく、自分のために

死んでよみがえったかたのために、生きるためである」(Ⅱコリント5・15)。

### 四、何ものにも優って神を愛する(4～11)

私たちが生きるのは、神を愛し、神のためです。このお方のために、何ものにも優る愛をささげて生きるのです。神との関係を大切にし、神を愛して生きることです。神の愛を知り、神を愛するために神の戒めを守り生きingことは、苦痛ではありません。むしろ、それが自然な生き方となります。私たちが偶像を嫌うのも、それを造ることをせず、拝むことをしないのも当然なことです。神が最も嫌われることを、神を愛する私たちはしたくありません。また、そのような偶像礼拝が、愚かで醜く、空しいことを知っています。それで私たちもまた、それらを忌み嫌うのです。偶像礼拝は、私たちの生き方とは全く違う異質なもののだからです。主の御名を尊び、主日を神のために聖別することは、私たちの心からの喜びです。

### 結論

主は、十戒の前半を要約して「心をつくし、精神をつくし、思いをつくして、主なるあなたの神を愛せよ」(マタイ22・37)と命じられました。私たちは、「主よ、何ものにも優ってあなたを愛します」と申し上げましょう。

## 研究資料

(小平徳行)

十戒は、神とイスラエルの民との間に結ばれた契約の基礎をなすものであるが、民はこの契約を破り、やがてキリストによる新しい契約が結ばれた。クリスチャンはもはや律法のもとにはいない（ローマ6・14）が、十戒は神と人、人と人とのあるべき関係を示しており、今日においても有効である。十戒は私たちに何が罪であるかを教え、キリストへと導く養育係としての役割を持つとともに（ガラテヤ3・24）、キリストによって成就され（マタイ5・17）、キリストに贖われた者が聖霊によってそこに生きることのできる恵みの約束となった。今回はその前半を学ぶ。ここでは対神関係について命じられており、これらは『心をつくし、精神をつくし、思いをつくして、主なるあなたの神を愛せよ』（マタイ22・37）に集約される。

## テキスト

2 十戒の序文である。ここには神の御名とイスラエルに対する神の御業について語られており、十戒の土台となる。あなたをエジプトの地、奴隷の家から導き出した者であるすべての戒めは、贖いに土台する。奴隷状態から解放された民

は、この神の恵みに応え、主だけを愛し信頼するように契約を結んだ。十戒は束縛ではなく、贖われた民の生き方が示されている。

3 あなたはわたしのほかに、なにものをも神としてはならない 第一戒は信仰の原点を宣言しており、あらゆる戒めの根幹をなす。ここで命じているのは、まことの神以外のものを神としてはならないということ、つまり偶像の禁止である。他の神々や富だけでなく、主なる神とは別に、何か頼りにするものや、神以上に大切なものがあるならば、それが偶像となる。道徳的乱れは、まことの神以外のものを神とするところから始まる（ローマ1・24く25）。主にのみ信頼するならば、自分を含め、他の頼りにならないものを頼りにして思い煩う必要はなくなるのである。

4く6 あなたは自分のために、刻んだ像を造ってはならない 第二戒は礼拝様式に関する命令で、偶像を造ること、拝むこと、それに仕えることが固く禁じられている。刻んだ像（ヘペセル）木や石を彫って造った物。しかし、ここでは特定の種類の像だけを禁じたのではなく、像そのものを禁じている。たとえまことの神を礼拝するためであっても像を使用してはならない。これは神を対象物とし、人間が主体となる

御利益宗教と化してしまう。神は霊であるから、霊とまこととをもって礼拝すべきである（ヨハネ4・24）。古代近東では、神の像は、その神の臨在の証拠と考えられていたので、これは例外的な戒めであった。**ねたむ神** これは神の所有する栄光と被造物に対する主権とを、偽りの神々に与えることを憎まれるということ。新共同訳では「熱情の神」と訳されているように、神はひたすらご自身の民に愛を注がれたからこそ、神だけを愛し仕えることを求められる。この熱情の極みは御子の十字架である。三、四代 罪の直接的なさばきは犯した本人に臨む（エゼキエル18章）が、罪は子孫に影響を与え、連帯責任としてのさばきは歴史の中に現れる。**恵みを施して、千代に至る** 恵み（ヘヘセド）は契約に基づく愛。神の愛は変わることがないゆえ、恵みは千代つまり永遠に続く（エレミヤ31・3）。

7 **あなたは、あなたの神、主の名を、みだりに唱えてはならない** 「みだりに」（ヘシャーウ）は「むなし、偽り、悪を行う」という意味がある。第三戒は主の御名を軽々しく唱えたり、偽りの誓いのために用いたり（レビ19・12）、呪いなどに用いたりすることを禁じている。これは人間が自己目的のために神を利用することになり、神が主であるという本来

の秩序が失われた状態である。人間は神に従うことが求められている（マタイ7・27）。またこの戒めは積極的には主の御名があがめられるべきことを示している（マタイ6・9）。

8、11 **安息日を覚えて、これを聖とせよ** 「安息日」は

「休む、やめる」（ヘシャーバス）から来ている。つまりこの日は、ただ休む日ではなく、今までしていたことをやめる日である。聖とするとは、この日を神のための日として取って置くということである。第四戒は一週間のうちの一日を区別して労働を中止し、その日を特別に神のためにとっておく（聖別する）ことを命じている。その日は、どの日でもいいのではなく、七日目（10）と明確に記されている。この日は神の創造の御業を覚えて感謝する日であるとともに（11）、神がイスラエルをエジプトから救い出されたことを覚える日（申命記5・15）でもある。これはやがて新約になって、日曜日为主の日となることを暗示している。すなわち、新約における主の日は、神の新しい創造を覚え、主の救いのみわざを感謝し賛美する日である。

参考図書 西満「出エジプト記」『新聖書注解・旧約I』（いのちのことば社）、安田吉三郎「出エジプト記」『実用聖書註解』（いのちのことば社）他

聖書 出エジプト 20・1～17

タイトル 神様、あなたが一番！

暗唱聖句 あなたはわたしのほかに、なにものをも神としてはならない。

出エジプト 20・3

目標 神を第一に愛する生き方をする。

## 導入

(和田 治)

皆さんは、「交通ルールを守ろう！」っていうことばを知ってるでしょう？信号を守ることや右側通行など、大切なルールは、皆を事故から守るためのものですよ。神様が私たち人間を愛して、幸せにしてあげたい、守ってあげたい！と思つて、とっておきの「ルール」をくださいました。それが「十戒」ですね。人間が神様と仲良しになり、他の人々と仲良くしていくためにどうしても必要な10のルールです。決して私たちから自由を奪うようなものはありません。4つ目までは神様と人間との間の、5つ目からは人間同士のルールが教えられています。今日は4つ目までを学びましょう。イエス様は、十戒の前半の4つをまとめてこうおっしゃいました。「心をつくし、精神をつくし、思いをつくして、主なるあなたの神を愛せよ」(マタイ22・37)。力いっぱい神様を愛しな

さい、ということですね。それはどんなことでしょうか。

## 神様はひとりだけ

皆さんは、聖書の一番最初に書かれている言葉を覚えてますか？そう、「はじめに神は天と地とを創造された」ですよ。天地の全てをお造りになったのが神様です。ということは、他には神はいない、ということですね。私たちの周りには、木や石や金属で作られた神がいっぱいありますよね。それらは、人間『を』造つた神様ではなく、人間『が』作つた神で、偶像といえます。どんなに立派な偶像でも、どんなにたくさんの人々から拝まれていても、全部偽物なのです。

天地を、そして私たちを造つてくださった本当の神様は、たくさんのお神々の中で一番偉いではありません。たつたおひとりの本物の神様なのです。神様は第一のルールとして「あなたはわたしのほかに、なにものをも神としてはならない」とおっしゃいました。このお方だけを礼拝しましょう。それが神様を愛することなのです。

## 他に神を作ってはだめ！

皆さんは、偶像を神様のように拝むことはないでしょうか？でも、神様よりも大事なものがあるなら、それは偶像なのです。偶像を英語で言うと『アイドル』です。あれ？テレビにも出てますよね、

5月

## 6日 礼拝メッセージ例

アイドルって。皆さんはどんなアイドルが好きですか？AKB48？嵐？でももしも、アイドルのほうが神様よりもっと大事になってしまったら、もうそれは偶像です。また、たとえば神様を礼拝しているのに、「あくはやくDSやりたいな〜」って、ゲームのことはかり考えていたり、好きなテレビのために礼拝をお休みするなら、それはもう偶像礼拝なのです。皆さんは大丈夫ですか？

実は、私たち人間が神様以上に大事にしやすいもの、一番偶像にしやすいものがあります。それは『自分自身』です。「じこちゅー」って言葉、知ってますよね。いつも自分が中心の人のことです。私たちは、他の人よりも、神様よりも、『自分』を大事にしてしまいがちです。そして、自分のために神様がいて！って思ってしまうんです。そうではありません！神様が、神様ご自身のために私たちをお造り下さいました。自分のために神様を召使のように使おうとしてはなりません。「神様、私はあなたのものです。お使い下さい」と、神様中心の生き方を選ぶのです。それが、第二の「あなたは、自分のために、偶像を造ってはならない」というルールを守る、神様を愛する道なのです。

### 神様のお名前は大切に！

第三のルールは「あなたは、あなたの神、主の御名を、みだりに唱えてはならない」ですね。時々、「オーマイガーッ！」ってテ

レビで言っています。ひょっとして皆さんも使ったことがあるかもいれません。実は、あのことは「オー、マイ、ゴッド」で「ゴッド」は神様のことなんです。つまり、神様のお名前を使って、驚きやいやな思いを表す、間違った言葉なんです。神様を愛する私たちは、そのお名前をふざけて使ってはなりませんよね。

### 日曜日は神様を礼拝する日

第四のルールは「安息日を覚えて、これを聖とせよ」です。日曜日は、体と心を休め、愛する神様を礼拝するための日です。それまでの一週間を振り返り、感謝や悔い改めの祈りをささげます。そして、神様の愛の力でいっぱいに満たされて、新しい一週間でスタートするのです。そのための喜びの礼拝をささげるのが日曜日です。

### まとめ

神様を第一に愛する生き方、それは、今日学んだ4つのルールを守る生き方です。「あなたが私たちの神様です。あなたを愛します。あなたがくださったルールを守ってあなたに喜ばれる歩みをさせてください！」と心から祈りましょう。

♪あなただけが我らの神♪

(ブレイズ&ワシップ インマヌエル12)

# 聖書 出エジプト20・1～17 テーマ 十戒（人との関係）

## 序論

（高橋頼男）

人は関係の中で生きています。人生は関係を持つということですから。それは神と他者と（物と）の関係です。十戒の後半の六つは、対人関係における戒めです。

## 一、両親への尊敬（12）

人間の関係は親子関係から始まります。子供は親子関係の中で人間関係を学び始めます。この時期、親は子供に対して神の權威を代表しており、宗教教育は両親に任せられた大きな責任です。家庭において、子が神を畏れることを学び、両親への尊敬を身につけることにより、真の權威と秩序を学ぶのです。私たちが家族生活において親と子のそれぞれの役割や責任を具体的に果たすことは、私たちの人間性、そして信仰にかかわることです。今日の緊急の課題は、核家族化、日常生活の多忙、生活環境の変化で家族関係が弱められていることです。もう一度、私たちの家族生活を問い、本来の姿に立ち帰ることではないでしょうか。

## 二、神に与えられた命の尊さ（13）

人の命が尊いのは、人間が神のかたちに造られ、神によって命

が与えられているからです。現代ほど、自分の命であれ他人の命であれ、人の命が軽んじられている時代はありません。かけがえのない人の命を自分本位に扱い、勝手に奪うことは恐ろしい罪です。一人一人の命が、神の御子の命に値積もられていることを覚え、神による命の価値を伝えねばなりません。この戒めは、憎しみや悪意という心の中の殺人を否定しています（マタイ5・22）。社会の残虐行為や拷問、テロを禁じます。母体の命にかかわらない安易な堕胎を禁じます。自殺と安楽死を戒めています。

## 三、結婚（性）は神聖である（14）

夫婦関係は、家庭や社会の基盤です。その関係を揺るがし、修復したいまでに破壊するのが姦淫（結婚のきずな以外で行われる男女関係）です。

結婚は神によって定められた神聖なものであって、姦淫は配偶者だけでなく、これを定め神聖なものとされた神への裏切り行為です。神が備えられた結婚（性）の祝福は、互いの人格完成のために互いを必要とし、愛により自分を相手に与え合うことを通して二人がもはや「一体」であることを知るためにあります。ですから、性は結婚のためであり、結婚のためだけにある特別な賜物です。結婚は、生涯にわたる貞節の関係を求めます。

#### 四、神が認められた所有を尊重せよ(15)

全てのものの所有者は神です。その神が認められた互いの所有は尊重されなければなりません。盗みや不正な方法で得た所有は、神の所有の主権に触れ、神への反逆となります。私たちが隣人を愛する時、人の命、人の結婚だけでなく、人の所有に関しても尊重しなければなりません。

盗みの方法はいろいろです。時を盗む(働くべき時間をさぼる)、高すぎる値段で不当な利益を得る、借金を返さない、他人の信用を盗む(噂をして人の評判を盗む)等々です。「盗んだ者は、今後、盗んではならない」(エペソ4・28)。

#### 五、共同体における隣人の名誉を守れ(16)

この戒めは、法廷や公の場で偽りの証言することを禁じ、共同体における隣人の名誉を守ることを命じています。法廷での証言は「真実を、また真実全体を語り、真実以外の何事も語らない」です。これは、「誇張」、「片面だけの真実」、「事実や真実に対する沈黙」が結果的に偽りとなることを指摘しています。自分を守るために偽りに堕ちてはなりません。

#### 六、全ての罪の根源であるむさぼり(17)

六戒から九戒までは人間の外の行為に関する罪を取り扱っていますが、第十戒は「むさぼり」という人間の内的な罪を取扱いま

す。神の光が、行動から動機へ、行為から内的な欲望に向けられています。実はこの「むさぼり」(貪欲)こそ、すべての罪の根源なのです。人や物との関係における具体的な罪は、みなこのむさぼりから出ています。

例えば、ダビデの犯した罪です(サムエル下11章)。ダビデは他人の妻を奪い(八戒違反)、情欲のおもむくまま姦淫を犯し(七戒違反)、犯した罪を欺くため夫を殺す計画を立て(九戒違反)、それを実行しました(六戒違反)。これら一連の罪はすべて、彼の限度を超えてしまった欲望(むさぼり)から出ています。私たちが切に欲したものが神となり、私たちの心と生活を支配するのです。

「貪欲は偶像礼拝にほかならない」(コロサイ3・5)。これに對して、「満ち足りることを持つ」ことこそ、この罪の誘惑に勝利する最善策です。「満ち足りる心を伴う敬虔こそ、大きな利益を受ける道です」(1テモテ6・6 新改訳)。

#### 結論

これらの戒めは、次の主イエスの言葉に集約されます。「自分を愛するようにあなたの隣人を愛せよ」(マタイ22・39)。

## 研究資料

(小平徳行)

十戒の後半を学ぶ。ここでは対人関係について扱っており、『自分を愛するようにあなたの隣り人を愛せよ』(マタイ22・39)に集約される。

## テキスト

**12 あなたの父と母を敬え** 社会の関係は親子関係から始まる。「敬う」(⌋カーバード)は「重い、重んじる」の意味があり、神、王、祭司、預言者に対して用いられている。旧約においては、両親は子どもに対して神の權威を代表するものであり、家庭における宗教教育は両親に課せられた重大な責任であった(申命記6・4-7)。それゆえ、両親を敬うことは神を敬うことに結びつく。この戒めは養育過程にある青少年にのみ向けて与えられたものではない。老年に達した親をもつ成人に対して、両親を尊敬し配慮すべきことを命じている。もちろん、み言葉に反することを強要されても従うべきということではない。あくまで「主にあって」(エペソ6・1)従うのである。**あなたが長く生きるためである** この戒めを守るとき、長寿が約束されている。両親を敬うことは神を敬うことにつながり、個人も国家も神の祝福を受けること

につながる。父母を軽んじる者は死罪にあたる(出エジプト21・17)ことも、それと関係しているであろう。

**13 あなたは殺してはならない** 第六戒は神から与えられている生命の尊さを教えている。神が殺人を禁じておられるのは、人間が神のかたちに造られ、神によつて命が与えられているからである(創世記9・6)。旧約聖書には「殺す」という意味の動詞がいくつか使われているが、ここで使われている「殺す」(⌋ラーツアハ)は、戦争や神の裁きによる死に対しては一度も用いられていない。つまりここで問題にしているのは、反共同体的な不法な殺害、個人的な仇敵(きうてき)の殺害である(もちろん戦争を肯定しているわけではない)。イエスは、この戒めの真の意味は、殺さなければいいということではなく、心の中の怒り、憎しみも神の前には殺人に等しいものであるとしている。さらに、憎しみを抱くことを禁じているだけでなく、兄弟と正しい関係に戻ることができるよう、積極的に踏み出すことが求められている(マタイ5・21-24)。

**14 あなたは姦淫してはならない** 「姦淫」(⌋ナーーフ)とは、既婚の男女が配偶者以外の異性と肉体関係を持つことを意味する。姦淫の罪に対する刑罰は死刑であった(レビ20・

10)。このように姦淫の罪が重いのは、結婚が非常に大切で、重い意味を持つて示していることを示している。ゆえに第七戒は結婚の神聖を守るための戒めであり、結婚のきずな以外で生ずるすべての性的交渉を罪とする。結婚は神を証人とした契約であり、姦淫は配偶者に対する裏切りだけでなく、神との契約に対する裏切りとなる（マタイ19・6）。パリサイ人らは姦淫を実際の行為にのみ限定していたが、イエスは、異性に対して情欲を抱く心が罪であることを示された（マタイ5・28）。パウロは夫婦の関係をキリストと教会との関係にたとえて、夫婦のあるべき姿を示している（エペソ5・22～33）。

15 **あなたは盗んではならない** 第八戒は自分の取る権利のないものを取ることを禁じており、互いの所有を尊重している。本来、すべての所有者は神であるゆえ（詩篇24・1）、盗みや不正な所有は神の所有を私物化し、神への反逆を意味する。隣人の所有の権利を犯した者は4、5倍にして償わなければならない（出エジプト22・1～3）。パウロは盗むことを禁じるだけでなく、隣人に与え、困っている人を助けるような生き方を勧めているのである（エペソ4・28）。

16 **あなたは隣人について、偽証してはならない** 第九戒は法廷や公の場合などの場において、偽りの証言をすることを禁

じ、神に贖<sup>あがな</sup>われた者の集まりである共同体の隣人の名誉を守ることが命じられている。しかし、この戒めは、法廷に限らず、普段の生活におけるあり方についても間接的に教えている。パウロもこの戒めに則<sup>したが</sup>って、偽りを捨て、真実を語ることを勧めているが、これはキリストにある一体性を根拠としている（エペソ4・25）。

17 **あなたは隣人の家をむさぼってはならない** 第六～九戒が具体的行為に現れた罪に関する戒めであるのに対して、第十戒は、むさぼりの意思、つまり内心の罪を念頭に置いている。「家」〔ヘ〕（ベート）は建物としての家だけでなく、そこにいる人間や財産などのすべてを含んでいる。自分のものではない物を欲しがる罪の思いが無ければ、他の戒めに対する不従順も起こらない。パウロは表面的な行為という点では落ち度がないと思っていたが（ピリピ3・6）、「むさぼってはならない」という戒めに心を照らされた時、自分の罪深さを悟った（ローマ7・7～8）。従ってこの戒めはあらゆる不従順の本質に迫っていると言える。

参考図書 5月6日分と同じ

## 聖書

出エジプト 20・1~17

## タイトル

愛をください！

## 暗唱聖句

あなたの父と母を敬え。

## 目標

人を愛し、大切にしている者となる。

出エジプト 20・12

## 導入

(和田 治)

今日は母の日ですね。今から百年位前に、アメリカでアンナ・ジャービスさんという人のお母さんが亡くなりました。しばらくして彼女は、「お母さんに『ありがとう』の気持ちを表したい」と思って、教会で白いカーネーションを配りました。それが母の日のスタートなんです。お母さんに心から「ありがとう」の気持ちを伝えましょう！

先週は、人間が神様と仲良しになり、他の人々と仲良くしていくためにどうしても必要な10のルール、十戒の1つ四番目を学びました。今日は五つ十番目を学びます。イエス様はそれらをまとめてこうおっしゃいました。「自分を愛するようにあなたの隣り人を愛せよ」（マタイ22・39）。隣り人って誰のことでしょう？ お隣さんだけ？ いいえ、あなたの周りのすべての人のことです。では、周りの人々を愛するってどういうことでしょうか。

## 父と母を敬え

五番目のルールは「あなたの父と母を敬え」です。敬うってどういうことかわかりますか？ かけがえのない存在として大切にすることです。どの両親のもとに生まれるかは神様がお決めになります。神様が与えてくださったかけがえのない存在だから、両親を大切に敬うのです。親の言うことを聞いていますか？ 素直に「はい」って従っていますか？ それが敬うということです。ただし、親が聖書の言葉と違うことを言っている時は、従ってはいけませんよ。

## 殺してはならない

第六のルールは「殺してはならない」です。私たち人間は、神様のかたちに造られ、命を神様からいただきました。ですから、他の人を殺してはいけませんし、自分を殺してもいけないのです。「自分の命は自分のものだ。どうしようも勝手だ」と考える人もいますが、とんでもない間違いです。そして、忘れないでください。神様の目から見れば、たとえ人殺しをしなくても、心の中で「憎たらしい」って誰かを憎んだり、「なにさ、ふん！」って誰かに怒りを持ちたりすれば、殺していることと同じだってことを…。あなたは大丈夫？

## 姦淫<sup>かんいん</sup>してはならない

第七のルールは「姦淫してはならない」です。姦淫というのは、夫が、自分の妻以外の女の人をも妻とすること、または、妻が、自分の夫以外の男の人をも夫とすることです。神様は唯一、命も唯一、夫にとつての妻、妻にとつての夫もやはり唯一です。唯一のものは取り換えがきかないかけがえのないものです。ですから大切にしなければならぬのです。それだけではありません。実は、エッチな本を見たり、いやらしいことを想像するだけでも、姦淫したことになるのです！

## 盗んではならない

第八のルールは「盗んではならない」です。お店に並んでいる品物をお金を払わずに持つて帰ることも、親の財布から黙ってお金を持ち出すことも、盗みですね。落ちているものを拾ったら警察に届けましょう。借りたものは返ししましょう。誰かの悪口を言いふらすことも、その人の評判を盗む罪ですから、やめましょう！

## 偽証してはならない

第九のルールは「偽証してはならない」です。嘘をついてはいけない、ということですね。皆さんは結構平気で嘘をついてはいませんか？誰にもばれないと思っているなら大間違いです。天の父なる神様は全部知っておられます。大げさに言ったり、知って

いるのに知らんぷりをしたり、自分を良く見せようとして違うことを言ったりすることも偽証の罪です。嘘は、そのままにしておくと、その嘘を通すためにもっと嘘をつかねばならなくなり、雪だるまのように大きくなっていくのです。神様に悔い改め、人にもちゃんと謝りましょう。

## むさぼってはならない

最後のルールは「むさぼってはならない」です。むさぼりとは、「もっともつと欲しい！」と思う気持ちのことです。第六から第九までのルールは、行いについてでしたね。でも、「むさぼってはならない」というのは、心の内側のことで、殺人や姦淫や盗み、嘘などを生み出す「もと」になるものなのです。また、むさぼりは、自分が得をしないいやだ！という思いです。これは神様を押しつける「じこちゅう」な心で、偶像礼拝なのです。

## まとめ

両親と周りの人を愛し、大切に生き方が、どんなものかわかりましたね。私たちの力では愛することはできません。神様の愛に満たされてこそ、隣人を自分自身のように愛せるのです。「神様、わたしをあなたの愛でいっぱい満たして、周囲の人々をもつと愛せるように守ってください」って、心から祈り求めましょう！

♪愛をください♪

(友よ歌おう 74)

# 聖書 テーマ マタイ6・7・13 主の祈り（神の御心）

序論

（高橋頼男）

イエスは有名な山上の説教の中で、祈りについてご自分の民に向かつて教えられました。まず祈りの態度について、偽善者の祈り、異邦人の祈りを例にとつて注意を与え、「だから、あなたがたはこう祈りなさい」と教えられたのが、主の祈りです。この祈りは、御国の民とされた者の祈りであり、クリスチャンの祈りの真髄です。

## 一、「アバ、父」（9）

祈りは、まず祈りを聞いて下さる方への呼びかけで始まります。イエスは天の神を、「父」（アバ）と呼びかけるよう教えてくださいました。まるで幼子が、その子を慈しむ父に全く信頼して親しく話しかけるように祈ることを勧められます。祈りを聞かれるお方は、恵みに満ち、限らない愛と慈しみをもつて、私たちの祈りをお聞き下さるのだということです。これは全く驚くべきことです。

本来、神の前に人間は立つことができない者です。御使いたちの「聖なるかな、聖なるかな、・・・」と呼ばれる声が神殿に

響きわたる時、人は、神の臨在に触れ、御前にうち伏して「わざわざいなるかな、わたしは滅びるばかりだ」と呻き叫ばざるを得ない者です（イザヤ6章）。しかし、キリストにより、その贖いによつて、今や神との隔てがすべて取り去られ、神に受け入れられ、愛され、慈しまれる者とされました。「父よ」と、愛と信頼の告白をもつて神に近づくものとされたのです。この恵みと特権をいただいて、主の前に出て行きましょう。父はそれを喜び、待つていてくださいます。

## 二、「御名があがめられますように」（9）

〈御名〉は、神の名のことです。神ご自身のことです。神の本質、権威、立場等、神の全存在のことを言っています。〈あがめられ〉るとは、神ご自身が常に、あらゆるもの（被造物）から聖別され、隔絶された存在として高く引き上げられ、尊ばれ、賛美され、感謝され、神が神としてふさわしく礼拝されることです。

「御名をあがめさせたまえ」と、日ごとに祈る私たちの祈りは、私たちが、私たちの存在そのものを神にささげ、全生活、全生涯を通して、神をこのようなお方として意識し、敬い、礼拝していくようにさせるのです。

## 三、御国がきますように(10)

〈御国〉とは、神のご支配のことです。天では、神の御支配が完全な姿でなされ、神のみどころが全くゆきわたる麗しい世界があります。しかし、私たちの住んでいるこの世界はそうではありません。神に反逆したこの世界は、あらゆる点で混沌としており、不法、不義の世界であることを知らされます。しかし、そのようなこの世に、天における完全な神のご支配と同じように、全き神の支配がなされることを祈り求めるのがこの祈りです。

神に逆らい抗うこの世界に、神の国の実力を現し、神の国の橋頭堡きやうとうぼを築き、拡大前進させていくのです。

この世における神の国は、キリストを迎える私たちの心の中に、神を畏おそれる家庭の中に、神の民の礼拝の中に存在することを教えられています。さらに、神の国がこの世においても力強く拡大していくよう、祈り求めていきましょう。

そのために、まず、私自身がキリストの豊かなご支配に与あずかり、内にキリストが拡大され、全きご支配の中に生かされることから始められなければなりません。

さらに、福音の宣教が聖霊の力によって進められ、人々が悔い改めて神に立ち返り、回心して神の恵みの支配の中に生きる

よう働きかけをしていきましょう。神の国の拡大と進展のために労苦するものとされましょう。

## 四、みどころが、天で行われるとおり、地にも行われますように(10)

神の国の民である私たちクリスチャンが、まず祈り求めるものは、「御名」、「御国」、そして、「みどころ」です。すべてのことにおいて、優先されるべきこと、大切なのは「神のみどころ」(わたしの御どころではない)です。私たちはよく、「最善がなされますように」と祈りますが、「最善」とは、神のみどころです。

しかし、主のみどころよりも、しばしば、自分の思いが優先しやすいのが私たちです。そんな私たちは、事あるごとに自分を捨て、自分を明け渡すことなしに、主のみどころを選び取ることはできません。この祈りを祈るとき、そのことを問われ、決断を迫られます。この祈りは、神への明け渡しと従順なくして祈ることはできないのです。

## 結論

私たちが祈るとき、「父よ」と親しく呼びかけ、恵みの御座に出で行きましょう。まず、「御名」、「御国」、「みどころ」を求めましょう。神のみどころがなされることこそ、最善であること信じ、神の国の拡大のために労する者となりましょう。

## 研究資料

(小平徳行)

山上の説教で、イエスが祈りの態度と祈るべき内容について教えている所である。9～13節が「主の祈り」である。この祈りの意味を深く自覚しないで、機械的に唱えることが少なくないため、ルターは主の祈りを「殉教者」と呼んだ。テルトゥリアヌスは「主の祈りは福音の要約である」と言った。私たちはこの祈りをささげるだけでなく、その意味を味わいつつ、日々の生活において、自分の信仰として歩みたい。

主の祈りは、前半が神に関するもので、後半が人の必要に関するものである。今回は前半を学ぶ。

## テキスト

7～8 ここですまず祈り方の間違いを指摘している。異邦人 神を知らない異教徒。くどくどと祈る 無意味な言葉のくり返しを意味する。ここでイエスは熱心な祈りを否定されたわけではなく、無意味なくり返しは必要なのであることを言われた。父なる神は私たちに必要なものはご存じであるから、信頼を持って祈るべきことを教えているのである。

9 ここからどのように祈るべきかを教えている。だから、あなたがたは「あなたがた」が強調されている。

つまり、「異邦人とは違う御国の民である、あなたがたは」というニュアンスが込められている。こう祈りなさい 現在形になっており「このように祈ることを習慣としないさい」ということである。天にいますわれらの父よ

これは呼びかけであり、神に対する愛と信頼の告白である。イスラエルの民にとって、神が父であるという概念は最初の契約の時からあるが、それは神の民という共同体の枠組みの中でのことであった。しかし、イエスは神との個人的な親しさを表明している。父(ギ)パテル)アラム語では「アバ」であり、幼児が自分の父親に話しかける時の言葉である。神に対して最も深い親しみを表す「アバ」という言葉をもつて祈りをするように教えたのはイエスが初めてであった。ここに神が恵み深い父親として一人一人に限りない愛と関心を持ち、喜んでその祈りを聴こうとしているお方であることが示されている(マタイ7・11)。人は皆、生まれつき神の子ではない。父としての神に祈ることができるのはクリスチャンだけである。このように「父よ」と呼びかけて祈るとき、神

が父であること、恵みによって子たる身分が与えられていることを覚えて感謝し、賛美すべきである。**天にいます** 神である父が、永遠、無限、全能の偉大な方であることを示す。**われらの** 主の祈りは個人の祈りだけでなく教会の祈りである。したがって、この祈りは神の家族をとりなしの祈りと配慮をもって愛することを教えている。**御名があがめられますように** これは主の祈り全体の最も重要で基本的な求めであり、祈りと生活の秘訣である。**御名** 神の本質、権威、立場などあらゆる面を含めた全存在を表し「神ご自身」といえる。**あがめる** (ギハギアゾー) は「聖別する」の意。したがってこの祈りは、神ご自身が全被造物から区別され、全世界が神を尊び、賛美し、礼拝し、感謝するようにという求めである。これがまず自分からなされるように祈ることは大切である(その後の二つの祈りについても同様である)。もし神がこの世を統治できないかのように恐れをもって生活したり、み言葉の約束を受け取らないならば、御名を尊ぶことにはならない。

**10 御国がきますように** キリスト者はやがて来る神の国の先取りとして、現在の生活においてキリストの豊かな

な支配を味わっている。この祈りは神の支配が自分自身のうちに拡大されること、そして福音宣教の進展により、人々が回心すること、さらにキリストが再臨され、天の御国が完成することを求める祈りである。

**みこころが…行われますように** この地上で起こるすべての事柄が、神の望んでおられる通りに運んで行くようにとの願いである。私たちは、主のみこころよりも自分の思いを行おうとしてしまう。したがって、自分を捨てないで、神のみこころを行うことを真剣には求めることはできない。イエスのゲッセマネの祈りにも共通する。これは従順を学ぶ祈りである。

これらの神に関わる祈りは、人の生き方を根本的に変えてしまう。人は神について祈る時の方が、自分の必要を祈ることよりも多くの変化を自らのうちに経験する。この祈りを真実にささげようとするなら、この祈りの一つ一つに「私のうちに、私を通して…」と付け加え、自らを神にささげるべきである。

**参考図書** 中澤啓介『マタイの福音書註解(上)』(いのちのことば社)、J・I パッカー『私たちの主の祈り』(いのちのことば社) 他

## 聖書

マタイ6・7～13

## タイトル

祈ろつよ、御心がなりますように！  
みこころが天に行われるとあり、地にも行われますように。 マタイ6・10

## 目 標

神様の御心になるように祈る者となる。

## 導入

(和田 治)

「はあああああゝっ、いいきもちゝっ！」皆さんは、空気のきれいな大自然の中で思いっきり深呼吸したことがありますか？  
なんだか生き返るような気持ちになりますよね。私たち人間はみんな、いつでも呼吸しています。呼吸を止められるとどうなりますか？そう、死んでしまいますよね。実は、『祈り』って、たましいの呼吸のようなものです。真の神様にささげる祈りは、私たちにとってもものすごく大切な、なくてはならないものなんです。そして、イエス様が「こう祈りなさい」って弟子たちにお教えになった「主の祈り」は、まさにたましいの深呼吸……今日は「主の祈り」について一緒に学びましょう。

## おひびちゃん！

「父よ」っていう呼びかけで祈りを始めるようにイエス様は教えてくださいました。父よ、は「アバ」という言葉で、赤

ちゃんやまだ幼い子どもが父親を呼ぶときの「おとうちゃん！」「パパー！」というような言葉なんです。神様って、この世界の全て、いや、宇宙の全部を造られ、治めておられる、何よりも偉大なお方。なのに、こんなにも親しく呼びかけていいなんて、驚きですよ！私たちのおとうちゃんであらうしやる神様は、私たちのことが大好きで、すごく大切に、どんな犠牲を払ってもし、一番良いように導いてあげたいと願ってくださるお方です。だから、何の遠慮もせずお祈りしていいんです。嬉しいですね！

## 御名があげられますように

「御名」は、神様のお名前のこと、神様ご自身のことです。神様があげられますようにってどういうことでしょうか。神様が神様にふさわしく礼拝されますようにってことです。神様らしくほめたえられ、尊ばれ、感謝されますように、ということです。そう祈る私たち自身が、まず神様を心から尊んでほめたえたいですよ。そのように変えられていくんです、心からこの祈りをささげていく人は！

## 御国がきますように

「御国」とは「神の国」のことです。それは、「ここにあるよ、ほら、あそこに」、というような場所ではありません。神様の恵

み・愛が満ちている状態が神の国なのです。私たちの心が神様の恵み・愛でみちているとき、そこは神の国です！御国が、イエスを心にお迎えした人の中に、神様を愛する家庭の中に、クリスチャンたちの礼拝の中にすでにあるのです。それがもっとと広がり、もっと深まりますように・・・そう祈るのが「御国がきますように」というこの祈りなのですね。

### みこころが行われますように

「みこころが天に行われるとおり、地にも行われますように」。これは、わたしたちの周りで起こる全てのことが、神様の望んでおられるとおりになりますように、つていう祈りなのです。クリスチャンはよく「最善に導いてください」つて祈ります。一番良いようにしてください。でも、それは実は「僕にとつて、一番良いように。わたしが一番得るように」つていう願いだったりするんです。皆さんはどうでしょう？心から「御国がなりますように」つて祈れるでしょうか？

イエス様は、十字架にかかられる前の晩、ゲツセマネの園で血のような汗を流しながら、必死にお祈りなさいました。「アバ、父よ、あなたには、できないことはありません。どうか、この杯をわたしから取りのけてください、十字架にかからなくてもよいようにしてください！」と・・・すべての人の罪を一身

に背負って、のろわれた者として苦しみ殺されるときを目の前に、そう祈られたのです。それがイエス様のお心でした。でも、続いてイエス様はこう祈られたのです。「しかし、わたしの思いではなく、みこころのままになさってください」。イエス様は、十字架のものをすごい苦しみを前に、ご自分の思いではなく父なる神様のみこころのままに、とお任せしてお従いになったのです。イエス様は、いつも、どんな場合でも、神様の御心こそがまさに「最善」なのだとすることを、命を懸けてお示しくださいました。

だから私たちは、安心して「御国がなりますように」と祈れるのです。最善以外はなさらない天のお父様に、お任せしておゆだねして、この祈りを心からおささげしましょう。

### まとめ

これまでも皆さんは、何度も主の祈りをささげてきたかもしれません。これからは、今日学んだように、天のおとうちゃんをほめたたえる心で、御国がきますように、御国がなりますようにつて祈りましょう。今、一緒に主の祈りをささげましょう。「あなたの御心が私の、私たちみんなの中になされますように！」という思いでね！

♪主の祈り♪

(ミクタムP&W148)

# 聖書 使徒1・12・14 テーマ 聖霊待望の祈り

序論

(高橋頼男)

今日は、ペンテコステです。復活の主の命令と約束に従って、弟子たちはエルサレムの二階座敷に集まり、共に、ひたすら、祈り待ち望んでいました。そこに約束の聖霊が注がれたのです。彼らは御霊に満たされ、神のことはを大胆に語り出しました。主の約束を信じて、彼らがみな心を合わせて、ひたすら祈りをしていたことに注目しましょう。

## 一、復活のイエスの命令と約束(4～5)

復活のイエスは弟子たちに向かって「全世界に出て行って、すべての造られたものに福音を宣べ伝えよ」(マルコ16・15)との宣教命令を与えられました。しかし、続く主の命令は、「エルサレムから離れないで、父の約束を待つ」でした。世界に出て行く前に、彼らがなさなければならぬことがあったのです。それは、彼ら自身が宣教のために整えられることでした。彼らが聖霊を求め、聖霊に満たされ、約束に従ってダイナミックな力を上から着せられるために、エルサレムに留まり、祈り待ち望むことでした。

イエスの命令と約束は確かです。イエスの約束を信じ、その命令に従うとき、必ず約束は実現するのです。主は、聖霊を求めることを命じなさいました。求めつづけ、捜しつづけ、たたきつづける者に、必ず約束の聖霊を与えることを繰り返し教えておられます。天の父は求めてくるものに、最も良き賜物、聖霊をくださらないことがあるうかと挑戦しておられます。(ルカ11・9～13)

「酒に酔ってはいけません。(中略)むしろ御霊に満たされ」なさいとは(エペソ5・18)、主の至上命令です。自分の弱さを知り、み言葉を行う力がないことを認め、本気になって聖霊を求めるものでありましょう。

## 二、エルサレムのアパルムに集まる(13)

昇天の主を見送った彼らは、そのままエルサレムに帰り、ただちに泊まっていた家の屋上に上がりました。彼らの心の中には、主の命令が明確に意識されていました。それは、「エルサレムから離れないで、かねてわたしから聞いていた父の約束を待っているがよい・」(4)です。

(エルサレム)は、弟子たちにとって一刻も早く離れたい場所であつたかもしれません。この都に同居する敵たちが、弟子たちを狙い、襲ってくる可能性があります。このエル

サレムで、主は十字架にかかれ、弟子たちはみな主を捨てて逃げてしまったのです。このような場所に留まることは、恐れと、自分たちの弱さと不信仰に向き合い、正直に自分を見つめることを意味しました。

〈彼らは：屋上の間にあがった〉は、彼らが一つの決意をもってアパルム（屋上の間）に集まったことを感じさせます。彼らは、主のお言葉に従い、明確な決意をもって、祈ることのために集まった集団でした。ただ、ひたすら、「間もなく」（1・5）という約束に従って、聖霊を受けるために集まったのです。それこそが、自分たちを姿がわりさせ、主の偉大な宣教命令にかなう者とされる唯一の望みであったのです。

### III、「共に」、「ひとすら」な祈り（14）

決意をもってアパルムに集まった人々は、雑多な人々でした。十一弟子たち、主に従ってきた女たち、母マリヤと、主の復活の後、主を信じる者となった主の兄弟たちでした。その他、総勢120人もの人々が集まったのです。この人々は、お互いに一つに集まり、共に祈ることの難しい人々であったかもしれません。十一弟子たちは、最後まで誰が一番偉いかと言い争っていた者たちでした。最初から主に従ってきた弟子と、イエスに批判的であって、後に加わったイエスの身内

の兄弟たちとの関係はどうだったでしょうか。しかし、彼らは主のことばに従い、共に集まったのです。そして、ひたすら祈りました。どういう状態であつても、とにかく、祈るところに主は働いてくださったのです。ペンテコステは、個人個人の祈りではなく、このような雑多な人々が、共に集まる祈りの中で起こりました。その後も教会と一緒に祈っている中で、ペンテコステの恵みが注がれています。個人の祈りと共に、教会の祈りこそ聖霊が注がれる祈りであることがわかります。教会全体で、祈祷会で、グループで、祈るために集まり、共に、ひたすら祈りましょう。そして、「ひとりびとりの上に」、「一同は聖霊に満たされ」（2・3・4）ることを求めていきましょう。

### 結論

復活のイエスのご命令に従い、教会の中のさまざまな人たちが、共に祈るために、アパルムに集まりましょう。そして、みな心を合わせ一つ心になって、ひたすら、祈ることをさせていただきます。これこそ聖霊に満たされ、聖霊による宣教のみわざが力強くなされるための神様の手段です。一同が聖霊に満たされ、み言葉を語り出すよう、祈り求めましょう。

## 研究資料

(金井由嗣)

14節の、弟子たちの祈りの姿に焦点を当てる。最初に、本書の著者ルカが祈りに特別の関心を抱いていたこと、また祈りと聖霊を常に関連づけていたことを考慮する必要がある。彼は共観福音書記者の中で唯一、主イエスが十二使徒の選任にあたって一晚中祈られたことを記し(ルカ6・12以下)、ユダに代わる十二使徒の補充の際にも選挙の前に祈りが捧げられたことを報告する(使徒1・24・26)。また弟子たちの祈りに聖霊の満たしに伴ったことは本日の箇所その他、ペテロとヨハネの釈放時(4・31)、ステパノ(7・59)、異邦人への聖霊の満たしに先立つペテロの祈り(10・9)など繰り返し強調されている(クルマン)。

この箇所の祈りは主イエスの命令(4・5節)と約束(8節)への応答である。「エルサレムから離れないで」「父の約束を待て」との主の命令通りに祈って待つ信仰の姿勢が、聖霊の満たしと地の果てまでの宣教につながったのである。

## テキスト

12 それから彼らは この記事が時間的に主イエスの昇天と連続していることを示す。安息日に許されている距離 ミシュナーの規定では二千キュビト(1km余り、ブルース)。弟子たちの生活感覚として、安息日規定が身につけていたことを教えてくれる記事である。後で出てくる神殿礼拝(2・46)や定時の祈り(3・1)の記事とあわせ、初期の弟子たちが律法に忠実なユダヤ人であったことを記録している(フィッツマイヤー)。

13 屋上の間 または「階上の間」。平らな屋根の上に建て増した部屋。伝統的に、最後の晩餐の部屋、及び復活の主が弟子たちに現れた部屋と同一視される。マルコの母親の家(12・12)であったとする伝承もある。エルサレム市内の拠点がいくつもあつたわけではないだろうか、それらが同一の箇所であつた蓋然性<sup>がいぜんせい</sup>はあるが、確かな根拠があるわけではない。この単語は開放的な「屋上」のみならず、簡単な壁と屋根を備えた「二階部屋」を指すこともある。そうであれば、主が現れた時弟子たちが「戸を閉めて」(ヨハネ20・19)いた記事との矛盾は解消するが、ユダヤ人の追求を恐れた弟子たちが同じ建物の

一階に籠もっていたという読み方もできる。その人たちは……共に祈っていた人々のリスト。最初に十二使徒（ユダが欠けたので実際は十一人）の名前が挙げられる。ルカ6・14と16と同じだが、一部の順序が違っている。マタイ10・2と4、マルコ3・16と18と比べると、「ヤコブの子ユダ」の名前が「タダイ」に入れ代わっている。同一人物の別名（一方は愛称）と見るべきだろう。

14 次に **婦人たち** が挙げられる。**イエスの母マリヤ**の名前が出てくるのは、新約聖書中この箇所が最後である。マリヤの最期についてカトリックには様々な伝承があるが、聖書は沈黙している。最後に、**イエスの兄弟たち**が出て来る。彼らは主イエスの生前には彼をメシヤだと信じていなかった（ヨハネ7・3と7）が、復活の後は弟子の交わりの中にいた。最大の理由は、復活された主がヤコブにご自身を現されたことであろう（1コリ15・7）。彼らの中、ヤコブとユダは新約聖書の中にその手紙を遺している。そのどちらにも、「主イエス・キリスト」への真剣で誠実な信仰が言い表されている。復活の出来事は、彼らの人生を決定的に変えたのである。

主語の **彼ら** とは、十一使徒である。使徒たちが教

会を代表するとの観念が現れていると見ることも可能である。**心を合わせて**〔ギ〕ホモシユマドン。新約聖書中に11回、そのうち10回が使徒行伝で使われている。邦訳聖書では様々な言葉に訳し分けられている。キリスト者の群が心を一つにして祈る場面の他、彼らを迫害するユダヤ人の集団行動にも用いられている。ある集団が一つとなつて行動する様子を生き生きと描く、本書に特徴的な用語。**ひたすら** そのことに専念する、専心する、の意。

主の約束された聖霊を受けるために、彼らがとつた方法は唯一、祈ることであつた。「間もなく」（5節）との主の言葉は、具体的にいつまで待てばよいかを示していない。また、聖霊を受けるために人間の側でできることは何一つなかった。彼らはただ主の約束を信じ、主の命じられたとおりに「ひたすら」祈りつつ待ち続けた。それこそが、聖霊を受けるための最善の備えだったのである（久保）。

参考図書 O・クルマン『新約聖書における祈り』、『ビジュアル聖書百科』、F・F・ブルース『使徒行伝』、久保泰昭『使徒の働き』、中島彰『主の復活の証人として』、J. Fitzmyer (Anchor Bible)。

## 聖書

使徒 1・12〜14

## タイトル

聖霊待望の祈り

## 暗唱聖句

彼らはみな、…心を合わせて、ひたすら祈をしていた。

使徒 1・14

## 目標

聖霊の恵みを求めて、心を合わせて祈る。

## 導入

(水野晶子)

今日はペンテコステ、特別なお祭りの日です。教会ではイエス様がお生まれになったクリスマスと、イエス様の復活を祝うイースター、そして、このペンテコステを大切な日として礼拝をささげます。ペンテコステは、約束されていたイエス様の霊、聖霊が注がれ、教会が生まれた日です。イエス様はよみがえられてから、40日の間、たびたび弟子たちに現れて、大切なことを命じられ、また、素晴らしい約束をしてくださいました。どんなことだったのでしょうか。

## イエス様の命令と約束

天に帰られるイエス様は、弟子たちに、「全世界に出て行って、すべての造られたものに福音を宣べ伝えよ」(マ

ルコ16・15)と命じられました。弟子たちも、十字架にかかって死んでしまったと思っていたイエス様が復活されたのを見て、このすばらしい喜びのビックニュースを伝えたいと思いました。しかし、弟子たちは弱いのです。敵を恐れていました。とても出て行く勇氣も信仰ありません。そんな弟子たちに、イエス様は、「見よ、わたしの父が約束されたものを、あなたがたに贈る。だから、上から力を授けられるまでは、あなたがたは都にとどまっていなさい」(ルカ24・49)と命じられたのです。そこで、弟子たちはエルサレムの泊まっていた家の屋上に集まりました。

## 祈りに集まった人々

祈りに集まった人々は、イエス様の弟子たち11人と、イエス様の兄弟たちとイエス様のお母さんのマリヤさん。それに、いつもイエス様に従ってきた女の人たちでした。弟子たちはイエス様が十字架にかかれる寸前に、一番偉いのは誰かと言っていました。また、イエス様が一番苦しんで祈られたゲッセマネの園で、一緒に祈ってほしいと言われたのに、眠ってしまうような頼りない弟子たちでした。イエス様の兄弟も、はじめはイエス様の働きを批判し

5月

27日

礼拝メッセージ例

ていました。この人たちが集められ祈り始めたのです。

### 心むすぶの祈り

イエス様は、彼らを一つにしてくださいました。祈っていくうちに、一人一人の心のうちに働きかけてくださったのです。「神様、私は自分が一番偉いといって威張っていました。ごめんなさい」「神様、私はイエス様を疑っていました。許してください」と次々悔い改めて祈りました。また、集まっている人たちも、お互いの罪をお詫びしあつて、みんなの心がどんどん一つになっていきました。

何よりも約束の聖霊を求めてひたすらに祈りました。上よりの力がいつ与えられるのか誰も知りません。毎日毎日、来る日も来る日も信じて祈りました。

十日たち、五旬節の日、約束の聖霊が一緒に集まっている一人一人の上にとどまり、一同が聖霊に満たされたのです。弱虫だった弟子たちは、力を受けて、大胆に恐れずイエス様のことを証しし、全世界に福音を伝える人になりました。

### 例話

Ｉさんは、中学３年生です。３歳の時に少しだけお父さんとお母さんが別居しました。その時「自分が悪い子だったから別居したんだ」と思ってた心を痛めていました。教会学校で、「イエス様は、私たちを宝物と見ていてくださる」というメッセージを聞いた時、それまで、いつも怒られたり、失敗すると「自分はだめだ」と考えていましたが、イエス様はどんな時でも愛してくださいっていて、十字架で私の罪の身代わりになってくださり、三日目によりがえられたことを信じて、小学校１年生で洗礼を受けました。小学校３年生の時、お友だちのＡさんにイエス様のことを伝えて、教会に導き、今も一緒に礼拝し奉仕しています。Ｉさんはいつも神様に祈り、待ち望んで、聖霊によってみ言葉を通して、力を受け、解決が与えられています。「あんな子じゃない」と言ったお父さんを恐れていましたが、聖霊は恐れを取り除いてくださいました。また、コロサイ１・25のお言葉から、伝道師になりたいと夢が与えられました。私たちも毎日聖霊を待ち望んで祈りましょう。聖霊に満たされて、主のみ言葉を伝えましょう。

♪おことばしんじ♪

(こどもさんびか改訂版93)

# 聖書 マタイ6・7・13 テーマ 主の祈り…人間の必要

## 序論

(福井文彦)

イエスは弟子たちの要望にこたえて「主の祈り」を教えられたのです(ルカ11・1・4)。この時、イエスは(こう祈りなさい)と言われました。これは現在形で、このように祈ることを習慣としなさいの意です。そこで、前回の神に関する三つの祈りに続いて、今回は後半の人間の必要を訴える三つの祈りについて学びます。

## 一、我らの日用の糧を、今日も与えたまえ

「日ごとの食物を、きょうもお与えください」と祈るほど、私たちは食物の必要を切実に感じているのでしょうか。

とりあえず、必要な食べ物が与えられているので、この祈りは、今の日本では何となく素通りしている感じがします。

ところが、この祈りには三つの要素があります。①神は魂と肉体を顧みられるお方であること。②神は日ごとに私たちの必要にかかわってくださいとお方であること。③神は隣人も含めて、私たちの必要を知っておられることです。

神は霊的な世界の主であり、物質的な世界の主でもあります。

ます。その神が食物を必要とするから、たを造られたのです。ですから、霊的なことだけでなく、からだの必要のために祈ることは決して程度の低いことではないのです。

神は「日ごとの食物」、すなわち日々必要な食物を備えてくださるのです。しかも、「日ごと」とは「日用」の意味で、普段の日常的な必要のすべてを含めて与えくださるのです。

しかも、「わたしたちの」と複数形になっています。神は私の神であり、隣人の神でもあります。ですから共同体や周囲の必要に関心をもち、分かち合いの心をもって生きることです。

## 二、我らに罪をおかす者を、我らがゆるす

### ごとき、我らの罪をもゆるしたまえ

キリスト教は、罪の赦しを教える宗教です。クリスチャンは信仰によって義と認められ、全ての罪を赦された者です。しかし、なお罪を赦されなければならない者でもあります(ヨハネ13・10)。

しかし、それは、単に自分への恵みとして留まるのではなく、私たちの周辺にいる人々への赦しとなっていくべきなのです。

イエスは他人の罪を赦すことを主の祈りに続く14～15節で触れておられます。また罪の赦しに関してたとえ話において語っておられ（マタイ18・21～35）、このことがいかに大切なことであるかがわかります。ただ、この場合、神の赦しが基本にあり、その結果として、他者への赦しが及んでいくのです。

新改訳では12節が、「私たちの負いめをお赦しください。私たちも、私たちに負いめのある人たちを赦しました」と訳されています。ですから、人が互いに赦し合うことが、神の赦しにあずかる根拠ではないのです。神の赦しの恵みに本当にあずかった者（赦しの経験をした者）が他者の罪を赦すことができる者とされるのです。

### 三、我らをこころみにあわせず

#### 悪より救いいたしまえ

私たちがこの祈りをささげなければならないのは、常に私たちが試みによる危険にさらされているからです（Iペテロ5・8）。しかも、私たちは試みに対して弱く、自分の力や知恵で打ち勝つことができないからです。

「試み」という語には、二つの意味があります。一つは誘惑で、もう一つは試練です。誘惑には悪へのいざないと

いう意味があります。しかし、試練は、その人の持つ実力とか決心などを試すという意味があります。ですから、ヤコブの手紙では「試み」が「試練」（1・2）と訳されており、クリスチャンが苦しみによってテストされ、信仰が訓練されることが意図されています。

この主の祈りの場合は「私たちを誘惑に陥らせないで、悪しき者よりお守り下さい」の意味です。「悪しき者」とはサタンのことです。サタンはクリスチャンに罪を犯させ、それによって信仰と人生を挫折させようとしています。人生で最も大きい誘惑は①お金、②性の問題、③地位と権力の問題です。サタンはこれらを種にして人を誘惑し、結局、罪を犯させ挫折させるのです。しかし、祈る時、神はそのようなサタンの誘惑から弱い私たちを守ってください。

#### 結論

イエスは、弟子たちに模範的な祈りを教えてくださいました。一人になって、霊肉の必要を、神に信頼して祈る時、神にはいつも祈りに答える用意があり、また必ず答えてくださるのです。

## 研究資料

(小平徳行)

主の祈りの後半を学ぶ。ここは人間の必要に関する祈りである。キリスト者はまず、神に関わる祈りをささげ、次いで自分の必要のために祈るという順序が大切である。私たちの必要はここで扱っている三つの願いに要約されている。

## テキスト

11 わたしたちの日ごとの食物を、きょうもお与えください 私たちはこの祈りにおいて、自分のいのちと全宇宙が父なる神に支えられていることを覚えることが大切である。私たちは自分の労働によって生きているのではなく、それらを祝福してくださる神によって養われているのである。物質的な必要のために祈ることは決して程度の低いことではない。むしろ自らが神に依存していることを認めることは神をあがめることになるのである。欠乏状態の時、食物がどれほどありがたいもので、生きる上において大切であるかを知るのである。食物を必要とするからだは神が造られたのである。この祈りは自分のからだを神の被造物として受け入れ、管理者として行動し、感謝をもって喜ぶ姿勢の

表れである。このことによりからだの創造主である神をあがめることになる。日ごとの食物 その日、その日に必要な食物。無くて済むぜいたく品ではない。かつて神はイスラエルの民のために、荒野で40年間マナを備えられ、毎日の必要を満たされた。ここでは食物に限らず、この世における生活に必要なすべてのものを含んでいると考えてよい。神は霊的な必要と同様に物質的な必要にも配慮してくださるお方である。わたしたちの 共同体の必要を覚え、分かち合う精神を背景にしている。

12 わたしたちに負債のある者をゆるしましたように、わたしたちの負債をもおゆるください 負債〔ギ〕オフエイレーマ〕は金銭上のトラブル、借金に対して使われたが、次第に、神が要求している道德的標準に達することができず、神に対して負い目を負っているという意味で使われるようになった。ルカによる福音書の主の祈りの中では、「罪」〔ギ〕ハマルティア〕が使われており（ルカ11・4）、この「負債」は罪を意味している。クリスチャンは信仰によって義と認められたが、なお罪の赦しを必要としている者である（ヨハネ13・10）。ゆるしましたように この動詞の時制は不定過去であり、すでに完全に赦し、もはや何

のこだわりもないというニュアンスが込められている。イエスは他人の罪を赦すべきことを、主の祈りに続く14と15節で触れ、さらには罪の赦しに関するたとえ話においても語っており（マタイ18・21と35）、これがいかに重要であるかを示している。ただし、ここで言っているのは人が互いに赦し合うことが、神の赦しにあずかる根拠であるというのではなく、神の赦しの恵みに本当にあずかった者は他者の罪を赦すことができるということである。

**13 わたしたちを試みに会わせないで、悪しき者からお救いください** 私たちがこの祈りをささげなければならぬのは、常に私たちが危険にさらされており（1ペテロ5・8）、罪や悪に対して弱く、自分の力や知恵で打ち勝つことはできないからである。したがって「誘惑に会わせてください」というように、私たちは誘惑を歓迎したり、これに挑戦したりすべきものではない。これは自分の弱さを認め、この中から救い出すことができる主に信頼する祈りである。**試み**（ギリヤスモス）「試練」とも「誘惑」とも訳すことができる。誘惑は最終的に罪をもたらすことを意図し、試練は信仰を磨くことを意図している。ここでは試練が背景にありつつも、誘惑に会わせないようにと祈っ

ていると考えられる。**悪しき者** これも「悪しき者」とも「悪しき行為、状態」とも訳すことができる。「悪しき者」はサタンのことである。どちらにしても、悪しき行為の背後には常にサタンの画策がある。

新改訳聖書の13節の最後には、「国と力と栄えは、とこしえにあなたのものでからです。アーメン。」と記載されている。最古の写本にはこの句は欠けているが、初代教会は、主の祈りを公の礼拝にふさわしく整えるため、かなり早い時期にこの頌栄を付け加えた。従って今日の教会が、この部分を加えて祈ることは自然である。神の国、神の力、神の栄光を神に帰することは、まことにふさわしいことである。この最後の祈りの言葉こそ、イエスが御国の民に教えようとされた究極の事柄であったといえる。祈りと賛美は鳥の両翼のようであり、両方働いているときに高く飛ぶことができる。「だからです」…私たちが備えと赦しと守りとを確信して求めるのは、主の御力に根拠があるためである（詩篇145等）。「アーメン」…それが真実であり、確実であるということ。祈り手自身が感じているよりもはるかに確実に、この祈りが聞かれているからである。

参考図書 5月20日分と同じ

## 聖書

マタイ6・7～13

## タイトル

主の祈り パートⅡ

## 暗唱聖句

わたしたちを試みに会わせないで、悪しき者からお救いください。

マタイ6・13

## 目標

霊肉の必要を率直に神に祈る者となる。

## 導入

(松浦みち子)

先週はペンテコステでしたね。あなたの教会では教会の誕生日であるペンテコステを祝い、記念して何か行事をしましたか？ ケーキなどをみんなで食べ、ペンテコステを感謝し、記念している教会もありますよ。

さて、今日は「主の祈り」の続きを学びましょう。

## 主の祈り(パートⅠ) 思い立ち

イエス様は、どう祈ったらよいかわからない人のために「こんなふうに祈りなさい」と、わかりやすく教えてくださいました。それが「主の祈り」ですね。そして、これは大きく二つに分けられます。一つは、神の国のために祈ることでした。金言を覚えていますか？「みこころが天に行われるとおり、地にも行われますように」。神様のお考え

になっていることが天国で行われるように、この地上の世界でも行われますように、と祈ります。イエス様は、お祈りの時、まず神様のことを思つて、世界中のみんなが神様を信じることができるよう祈りなさい、と教えて下さったのですね。

## 主の祈り(パートⅡ) 自分たちの祈り

今日は「主の祈り」の二つ目について学びます。それは、自分たちの毎日の生活のために祈ることを教えてくださいました。「わたしたちの**日ごと**の**食物**を、**きょうもお与えください**」と。神様は、私たちの毎日の生活に必要なものすべてを与えてくださっています。そのことを感謝し、今日も与えられるよう祈ります。「わたしたちの」となっていますから「わたし」だけのお願ひにならないように気をつけましょう。世界には食べ物がなくお腹をすかしている子どもたちがたくさんいます。そのような人たちのことを忘れないようにしましょう。「**わたしたちに負債のある者をゆるしましたように、わたしたちの負債をもゆるしてください**」。「負債」というのは罪のことです。わたしたちはイエス様の十字架によつて罪を赦されましたが、まだまだ罪を犯してしまう者です。ですから、日ごとに「わたし

の罪をお赦しください」と祈ります。さらに大切なのは「わたしたちに負債のある者をゆるしましたように」という祈りです。神様がわたしたちの罪を赦してくださいただから、わたしたちも人を赦すことが求められています。しかし、このことは頭でわかっていてもなかなか実行がむずかしいことです。ある人が「わたしはこの部分の主の祈りが祈れないのです」と苦しうに言われたことがあります。あなたはどうぞでしょう。あなたに意地悪する人のことを心から赦して祈れるでしょうか。ですから、イエス様は「主の祈り」に続けて、「もしも、あなたがたが人々のあやまちをゆるすならば、あなたがたの天の父も、あなたがたをゆるして下さるであろう。もし、ゆるさないならば、あなたがたの父も、あなたがたのあやまちをゆるして下さらないであろう」と言われました。この祈りはとても重要な祈りです。わたしたちも心して祈りましょう。「わたしたちを試みに会わせないで、悪しき者からお救いください」。「試み」とは悪魔の誘惑のことです。悪魔に負けて神様から離れてしまわないように守ってくださいという祈りです。イエス様は十字架につけられる前の夜、最後の晩餐の席上で「父よ、時がきました」と祈り始められ、天のお父様に

とりなして下さっています。「わたしがお願いするのは、彼らを世から取り去ることではなく、彼らを悪しき者から守って下さることであります。わたしが世のものではないように、彼らも世のものではありません」(ヨハネ17・15-16)。イエス様の心の内から溢れ出る思いがジンと胸に響いてきますね。イエス様を信じていてもこの地上で生きている限り、さまざまな試みを受けます。失敗してしまうこともあるでしょう。しかし、負けてしまつて罪を犯し、神様から離れてしまうことのないように、日ごとに「試みに会わせないで」と祈るよう教えてくださったのですね。

### 主の祈りを暗記しよう！

この祈りには、わたしたちが祈るべきことすべてが含まれています。心を神様に向けて、一つ一つの祈りの意味をよく考えながら、祈るようにしましょう。暗記するならば、いつでも、どこでも祈れます。英語で暗記するならば、もっと多くの人と心を合わせることができるよう。

♪しゅのいのりを♪

(旧版 日キこどもさんびか 59)

# 聖書 テーマ マタイ6・25〜34 思い煩いからの解放

序論

(福井文彦)

人間が毎日生活していく上で食物や衣服は必需品です。イエスは空の鳥を養い野の花を装ってくださる天の神が配慮し、それらを与えてくださるのだから、その神を信頼して〈思いわずらうな〉と戒められました。

## 一、神への信頼

イエスはまず〈空の鳥を見るがよい〉と言われました。彼らは生活のために働くことは全くありませんし、食べ物をストックもしません。その彼らを神は養ってくださるのです。彼らは天の父が与えられるものを集めるだけです。まして、神は人を鳥よりも、〈はるかにすぐれた者〉として創造されたのですから必ず養ってくださいます。だから、ただ神を信頼することです。

次にイエスは〈野の花がどうして育っているか、考えて見るがよい〉と言われました。野に咲く花は〈働きもせず、紡ぎもしない〉のです。それでも神は〈ソロモン〉の〈栄華〉、その人工美よりも、美しく飾られまし

た。神は人よりも劣るものをこのように装われるなら、人間にもっと深い配慮をなさるはずで。だから、ただ神を信じることです。

人は働き、紡がなければなりません。しかし、これら一切のことをなし終えたら、あとは神の摂理にすべてを託すべきです。人は空の鳥を養われ、野の花を美しく飾られるのは〈天の父〉であるという信仰をもって、神に信頼することです。

## 二、思いわずらうな

25節から34節には〈思いわずらう〉(新改訳では「心配する」)が六回出ています。それに対してイエスは〈思いわずらう〉ことが不必要である理由を語っておられます。

①神は造られた〈空の鳥〉〈野の花〉を養ってくださるのですから、それらよりすぐれた私たちを養ってくださるのは当然です(26、30)。

②私たちはいくら〈思いわずらって〉も〈自分の寿命をわすかでも延ばすことができない〉のです(27)。人間の寿命は神が定められることです。ですから、いくら思いわずらっても、少しも延ばすことはできません。それと同

じように、いくら「思いわずらって」も問題の解決にはならないのです。

③父なる神は食物や衣服（人間の生活必需品）が私たちに必要なことをすべて知っておられます（32）。そのために愛をもって配慮し備えてくださいます。神は決して物質的な必要を軽視したり、無視したりはなさらないのです。だから心配するよりもまず神を信じることで（8）。

④あすのことを思いわずらってはならないのです（34）。人生にはその日その日の苦労があるのですから、一日一日の責任を果して生きることです。「あす」（未来）のことは、神がご支配しておられるのですから思いわずらう必要がないのです。

### 三、まず神の国と神の義を求める

そこでイエスは「まず神の国と神の義とを求めなさい」と命じられました。「神の国」とは神のご支配のことであり、「神の義」とは神の正しさのことです。ですからそれは、私たちの生活と周りのすべての事において神の御支配と、神のみこころと栄光の現されることを求めて生活することです。言い換えると、自分中心の生き

方ではなくて、神を主にして自分を従とする生き方です。それは、神に信頼し、服従して生活することです。

「そうすれば、これらのものは、すべて添えて与えられるであろう」とイエスは約束されました。「これらのもの」とは食物や衣服だけではありません。私たちが人間として生きて行くときにはそうした物質的のほかにも、非物質的なたくさんの方がありますが、それらも含まれています。例えば、健康、知恵、才能、霊的なものもそうです。それらはみな、人間は神によって生かされていくものであるとの自覚に立って、神に信頼し、服従して歩むなら備えられると、イエスは言われました。そのような生き方こそは私たちを「思いわずらい」から解放して、平安を与え、神の目標に向かって働くものとするのです。

### 結論

最も大事なことは、「神の国と神の義」を求めていくこと、すなわち、神に信頼し、服従して生活することです。そうすれば、食物や衣服という物質的なものだけでなく、霊的なものにおいても、空の鳥を養い、野の花を装われる天の父は、豊かに与えてくださいます。

## 研究資料

(宮澤清志)

イエスが主の祈りの後に弟子たちに教えられたことは、天の御国の中での弟子たちの歩みであった(6・19〜7・12)。新しい契約の中で、御国の民がどのように生きていくべきかを積極的な側面から教えられたものである。その中のひとつとしてこの箇所からイエスが教えられたものは、思い煩いを捨て、神に全面的に信頼していく生き方である。この箇所は、ルカ12・22〜32に並行記事として登場する。この箇所を学ぶに当たっては、ルカにも登場する箇所か、それともマタイにしかない箇所かをよく見ながら聖書を読んでいくと、この箇所に対する考察が深まるであろう。

## テキスト

**25 何を食べようか、何を飲もうか、何を着ようか** この当時の思いわずらいのとは、食べ物、飲み物と着るものだったようである。イエスは、これらの思い煩いの代表的要素を並べ立てて、思いわずらうてはならないとお命じになったのである。**思いわずらう** もとの意味は「いろいろな部分に分裂する」という意味の言葉である。また、この言葉はそのような思いわずらいを中止せよ、という強い命令形で述べられている。

ルカによる福音書第10章に登場するマルタは、まさにこのような状況だったと言える(ルカ10・41〜42)。彼女は、なくてはならないだ、一つのことに心を傾けるのではなく、必要ではない多くのことに心を裂かれていた。

**26〜27** 私たちが読み違えてはならないことは、この節は、前節からの「思いわずらいからの解放」という文脈に沿って読むべきであって、空の鳥のたとえを人間の労働にからめて読むべきではない。**空の鳥** ルカの並行記事では「からす」となっている(ルカ12・24)。**まくことも、刈ることも** 農業におけるこれらの行為は、当時、男性の代表的な仕事とされてきた。したがって、この節では、男性に対する思いわずらいからの解放を述べているのであろう。**あなたがたは**(26) 強調された言葉であり、鳥に比べてあなたがたこそ、という意味合いの強い言葉である。**自分の寿命**(27) ある英訳聖書では「自分の身長に」という別訳をつける。いずれの訳も成り立つが、文脈上、「寿命」のほうが自然である。

**28〜30** こちらも前節までと同様に、「思いわずらいからの解放」という文脈の中で読むべき箇所である。**野の花** 新改訳では「野のゆり」となっているが、本来的な意味は「野生の花」という意味であり、特定の花を指す言葉ではないようである。

**紡(く)** この仕事は当時の女性特有の仕事だったようであり、前節までの男性と併せて、女性にも思いわずらいからの解放を、野の花のたとえを通して語られたものであろう。

いずれにしても、重要なことは、野の花が短命であるにもかかわらず(30)、神はそれらを着飾らせ、養つていて下さる、ということである。

**信仰の薄い** 「信仰がない」と語られていないことに注意したい。直訳すれば「信仰の小さい(少ない)者」という意味である。この言葉はマタイが好んで用いた言葉で(8・26、14・31、16・8、17・20、他にはルカ12・28のみである)、いずれも弟子たちにだけ用いられた言葉である。具体的には、信じるとは言いながらも実際はまったく信じていないことを指す言葉であつて、信仰の不完全とか未熟さを表す言葉ではない。

**31 思いわずらうな** 25節の言葉とは文法的に少々異なり、更に強い禁止の言葉となっている。

**32 これらのもの** 原文ではこの言葉が文頭に置かれている。これらのもの、すなわち食べ物、飲み物、着るものなどが強調して語られている。**異邦人** ここでいう異邦人とは、ユダヤ人に対する異邦人という意味ではなく、天の父を知らないすべての人々を指す(5・47、6・7)。

**33** これまでは「思いわずらうな」という、神の民の消極的な生き方を取り上げてきた。この節は、一歩進んで神の民の積極的な生き方を述べる。

**神の国** 神がご自身の恵みをもって支配されることであり、また「天の神がご支配される力強い出来事」(織田)を指す。更に、山上の説教との関連で語られるなら、主の祈りを真に生き、祈る神の民の姿として現れる。**神の義** 全被造物に対する神の救いの御計画とみることができ。 **求めなさい** 求め続けるように、という意味。この命令は、生涯をかけて人間が求め続ける必要があるものである。 **与えられる** (神によつて) 加えて与えられる、たくさん与える、という意味の言葉であり、神は、求める人に対して、その人に必要なものを備えて下さる、という意味をもつ。

**34** ルカの並行記事には存在しないマタイ独特の言葉。思いわずらつてはならないことを再度警告されたのであろう。人間にとつては「明日」という日は死ぬまで存在する。しかし、明日のことは誰にもわからない。ゆえに、このわずらいから解放される道は、明日を支配される神を信じて、その神に自分のすべてを明け渡すことである。

**参考図書** 4月15日分と同じ

## 聖書

マタイ6・25～34

## タイトル

心配は無用！（花の日・子供の日）

野の花がどうして育っているか、考えて見るがよい。

## 目標

必要を備えてくださる神様を信頼し、心配しないで生きる。

## 導入

（松浦みち子）

今日は教会では「花の日」「子供の日」と呼ばれています。えっ？5月5日が「こどもの日」なのに、と思うでしょう。まずその由来からお話しましょうね。

## 「花の日・子供の日」の由来

今から160年も前の一八五六年6月第二日曜日礼拝のことでした。アメリカのある町の教会の牧師レオナード先生は、7才になった子どもたちの名前を呼んで、一人一人に名前・生年月日・先生のサインを書き入れた聖書をプレゼントしました。そして、子どもたちの頭に手を置いて、神様の祝福があるようにとお祈りしました。その時、会堂にはリボンで結ばれた花がたくさん飾られていました。礼拝後、その美しいお花を持って、病氣の人を見舞ったり、日頃お世

話になっている人たちを訪問してお礼に行きました。これが最初の「花の日」礼拝でした。その後、あちこちの教会で「花の日」礼拝が守られるようになりました。そして、この日は「子どもを神様にささげる日、子どもの祝福を祈る日」として「子供の日」とも呼ばれるようになったのです。日本には宣教師の先生を通して伝えられたのです。なんて素敵な日曜礼拝でしょう。

## 野の花を見よ、そして考えよ

イエス様は「野の花がどうして育っているか、考えて見るがよい」と言われました。そこで、今日は、野の花のことをじっくり考えて見ることにしましょう。

①野の花は、働きもせず、紡ぎもしません。イエス様が言われたように、野の花は自分で歩いてどこか別の場所に行くということはありません。ただ、そこに置かれた所にじっとしているだけです。先日、ニユースでこんな不思議な研究発表がされました。北海道の阿寒湖にマリモという特別天然記念物の緑色で丸い形の藻が生えています。ヨロップパ地方にもところどころにマリモが繁殖しているようですが、DNAを調べて見ると北海道の阿寒湖のものと同じだということです。研究発表によると渡り鳥が藻を食べた

6月

# 10日 礼拝メッセージ例

魚を食べ、その鳥が出す糞を通して広がったのではないかと推測する以外に考えられないというのです、本当に不思議なことですね。

②きよう生えていて、あすは炉に投げ入れられる野の草。野の草は、人に見られるから花を咲かせるのでしょうか。いいえ、人に見られようと見られまいと、繁殖のために花を咲かせ、何百倍もの種を実らせるという自分の務めを黙々と遂行しています。明日は刈られて炉に入れられてしまうから、花を咲かすのをやめようかなんて考えもしません。ただ、自分のすべき使命に命を燃やすのです。そして、何をされても抵抗せず、なすがまま、その運命を受け入れられます。

③栄華をきわめた時のソロモンでさえ、この花一つほどにも着飾っていない。今の季節を代表する花はアジサイですね。よく観察してみましょう。小さな花が寄せ集まって大きな花房になっています。その小さな花の一つ一つに雌しべ雄しべがあり、咲いているうちに色に変化していくのです。ソロモン王様の高価な服も作ったならそのままの形が保たれます。しかし、アジサイの花は日に日に色を変化させます。そんな生きた洋服は、世界でまだ発明されてい

ないでしょう。このように野の花のことを考えると、イエス様の次のことばがぐっと心に迫ってきますね。「きようは生えていて、あすは炉に投げ入れられる野の花でさえ、神はこのように装って下さるのなら、あなたがたにそれ以上よくしてくださらないはずがあるうか」と。

## 心配は無用です！

イエス様は「何を食べようか、何を飲もうか、あるいは何を着ようかと言って思いわずらうな」と言われました。思いわずらうとは、心配して悩み苦しむことです。神様に信頼しない人は、自分の力でどうにかしようとジタバタします。そして心が心配で支配されていると、神様のことはも聞こえません。自分が中心になっているからです。「まず、神の国と神の義とを求めなさい」とイエス様が言われたように、神様を第一とする時、私たちの考えは変えられていきます。神様はすべてを良きに導いて下さいます。ですから、明日のための心配は無用です。神様の守りを感謝し、一日一日を喜んで歩んでいきましょう。

♪あすをまもられるイエスさま♪

(ホーリネス 子どもさんびか 66)

# 聖書 マタイ7・7-12 テーマ 天の父への祈り

## 序論

(福井文彦)

私たちは神の子とされ、神の子の霊を与えられ、「天のお父さま」と言って祈ることができ者にされたのです。そのために大切なことは、本当に必要であるとの告白を与えてくださるのは、天の父なる神であるという信仰の確信です。

## 一、祈り求めよ

イエスは祈り求めなさいと言われました。しかも〈求めろ〉ということばを一度や二度でなく、五度も繰り返し、祈り求めることの大切さを教えられました。そして、その祈りが聞かれるために〈求めよ〉〈捜せ〉〈たたけ〉と。そうすれば、〈与えられる〉、〈見いだす〉、〈あけてもらえろ〉と約束されたのです。すなわち、三重の異なった動詞をもって、祈りが答えられる確かさを示し、疑いを持つことなく祈り求めなさいと教えられたのです。多くの人々は祈っても、それが本当に聞かれるという信仰の確信を持っていないのではないかと思います。それは天の父なる神

が答えてくださるとの信仰を持っていないからです。

しかし、人はだれでも銀行で金銭の取り引きが、郵便局では郵便物の手続きが、食料品店で食物を求めることができますと納得することができます。そのように祈りというものが、神に聞かれ、応えられるとの信仰の確信を持っている人は、誰からも強制されなくても祈るものです。

## 二、求め続けよ

イエスは、落胆しないで、目的を果すまで祈り続けなさいと三つの動詞で教えておられます(7)。すなわち、〈求めよ〉、〈捜せ〉、〈門をたたけ〉です。この〈求めよ〉、〈捜せ〉、〈門をたたけ〉ということばは、原文では、「求め続けなさい」、「捜し続けなさい」、「門をたたき続けなさい」という意味があります。ですから、〈求め〉でも与えられないからといって、あきらめてはいけません。もし、〈求め〉でも与えられないとするなら、もつと自分から積極的に〈捜〉してみなさい。それでも見出せなかつたら、放っておかず手から血が出るまで〈門をたたき続けなさい〉ということなのです。

そのことはイエスご自身の祈りの生活の中にも見られます。主は早朝、人を避けて祈られ(マルコ1:35)、徹夜

で祈られました（ルカ6・12）。特に、十字架の前夜のゲツセマネの祈りでは、血のしたたりのような汗を流して祈られたのです（ルカ22・44）。その祈りは非常に激しいものであったとヘブル人への手紙に記されています（5・7）。イエスはこのようなご自分の体験を通して、祈りが神に聞かれるためには、「求め続けよ、捜し続けよ、門をたたき続けよ」と、あきらめずに熱心に求めていることを教えられたのです。

### 三、祈りに答えてくださる天の父

イエスはここでは、祈りに答えてくださる神を、地上における子どもと父親にたとえておられます（9・11）。私たちがイエスの御名をもつて祈るとき、私たちと神との関係は奴隸と主人、富める者と貧しい者のような関係ではありません。父と子との関係であり、しかもこの世の親子関係以上の関係なのです。

自分の子どもがパンを求めたときに石を、魚を求めるときに蛇を与える父親はいないでしょう。（あなたがたは悪い者であつても）とは、心が墮落して弱さと悪を持ち合わせている者であつても、の意味です。それでも（自分の子供には、良い贈り物を知っている）のです。そ

れは父親の愛のゆえです。ましてや、天の父なる神は愛の源であり本体であり、善にして、人の心を深く洞察できるお方です。ですから、肉親の父親以上に（求めてくる者に良いものを）くださるお方なのです。

神は良いものだけをお与えになるお方であり、神がお与えになるものは、いつも決まって最善のものです。だから私たちは大きな願望をもつて神のもとに行き、必要としているものを求め、しかも不動の信仰をもつて、神が良いものを与えてくださるようにと願うことができるのです。神は私たちをこの上なく愛しておられるので、正しく歩む者に有用有益なものを下さるのです。神は、私たちに最善なものが何であるかをご存じますから、その最善のものを与えてくださいます。

### 結論

人間の親子関係でも、子どもは屈託なくどんな心配事でも父親のもとに持つて行きます。そのように、私たちも天の父なる神に熱心に祈り求めましょう。神が祈りに答えて良きものを与えてくださることを信じて祈り求めましょう。

## 研究資料

(中島啓二)

求めよ、捜せ、門をたたけという三重の命令は、父なる神に対し揺るぎない信仰を持って祈るようにという招きである。親の愛は地上における大きな愛の代表と言えるが、天の父はそれすらも比較にならないほど真実な愛を注いでくださるお方である。「何事でも人々からしてほしいと望むことは、人々にもそのとおりにせよ」との黄金律は、その神からの真実の愛を受けているという大前提があつてこそ、意味を持つものなのである。

## テキスト

7 求めよ…捜せ…門をたたけ… 三つの命令はすべて現在形で、「〜続けよ」と動作の継続が命じられている(ルカ11・8、18・3参照)。並行箇所であるルカ11章では、この命令の前に、長旅で疲れた友人のために隣人にパンを求める人のたとえが語られている。求め、捜し、門をたたけという三つの動作に段階を見いだす解釈もあるが、外してはならない中心的ポイントは、「とにかく熱心に祈り求めよ」ということであろう。「もしあなたがたが一心にわたしを尋ね求めるならば、わたしはあ

なたがたに会うと主は言われる」(エレミヤ29・13、14)との約束でも、「一心に」求めることが条件とされている。そうすれば、与えられるであろう…見いだすであろう…あけてもらえるであろう これらは「神的受動態」と呼ばれ、与え主は言うまでもなく神ご自身である。

8 すべて求める者は得、捜す者は見だし、門をたたく者はあけてもらえるからである 21・22の「祈るとき、信じて求めるものは、みな与えられるであろう」との約束と比較するときに、そちらの約束が「もしあなたがたが信じて疑わないならば」(21・21)と条件付きであるのに対し、こちらは「すべて求める者は…」と無条件であることは注目すべきである。逆に、祈りの答(与えられるもの)の具体性について見ると、21章では、山が海の中に移るといような奇跡さえも含む「求めるものは、みな」(21・22)であるのに対し、この7章では、得、見だし、あけてもらえる、との三つの動詞のうち、三つ目に「門」という抽象的な目的語が示されているのみである。このことは、この箇所での強調点が、与えられる「良いもの」(11) 自体ではなく、ご自身の民の必要を満たしてくださる「神の真実さ」に置かれていると

いうことを示すと考えてよいだろう。

9～10 パンや魚はガリラヤ地方の日常の食物である。

パンを求めるのに、石を 丸い石はパンに形が似ている。魚を求めるのに、へびを へびはガリラヤ湖に生息するうなぎ（律法によって食用を禁じられていた）の一種かもしれない。そのようなものを子に与える親はいない。親は真実な愛をもって子の必要に応えようとするのである。

11 あなたがたは悪い者であっても… 特別に悪い人というのではない。天の父の真実と比べたとき、すべての人は、たとえ親切な親であっても、罪深いのである。

天にいますあなたがたの父はなおさら… 下等なものに見いださる法則が、高等なものにさらなる蓋然性<sup>がいぜんせい</sup>をもつて当てはまるといふ、ユダヤの一般的な論法。良いものを下さらないことがあるうか 「良いもの」は6・31～

33にあるような日常生活の必要を除外するものではないが、第一義的には、神の国の祝福という終末的な意味合いを持つものと言えよう。ルカははつきり「聖霊」（11・13）と記している。

12 だから ここまで語られてきたことを大前提として、黄金律が語られている点が非常に重要。何事でも人々が

らしてほしいと望むことは、人々にもそのとおりによ

この黄金律は消極的な形式（くするな）ではすでに知られていた。例えば紀元前後のユダヤ教師ヒレルは「あなたが憎むことを、あなたの仲間に行うな。これが律法の全体であり、その他のものはその注釈である」と教えた。しかしイエスが教えた積極的な形式（くせよ）には、大きな意味の変化がある。キリストはまさに、積極的・自己犠牲的な愛によって律法を成就されたお方である。

それゆえキリスト者の生き方も、常識的、律法的な地平から、律法の成就としての愛の地平へと飛翔するべきなのである。律法であり預言者である これとは別に、もう一つイエスが律法の要約として示したのが、「自分を愛するようにあなたの隣り人を愛せよ」（マタイ22・39）である（レビ19・18参照）。この7章の黄金律はそれと別物ではなく、少しニュアンスの違った解釈であると理解して良いだろう。自分のして欲しいことを他人にもすることこそが、隣人愛に他ならないのである。そしてそれは、神から真実の愛をもって愛されているのだという実感があつて初めて、人に与えうる愛なのである。

参考文献 4月1日分と同じ。

## 聖書

マタイ7・7～12

## タイトル

天の父に祈ろう！（父の目）

## 暗唱聖句

天にいますあなたがたの父はなおさう、

求めてくる者に良いものを下さらない

ことがあるつか。

マタイ7・11

## 目標

祈りに答えて良いものを与えてくださる天の父なる神を信じる。

## 導入

（松浦みち子）

今日は父の日ですが、皆さんのお父さんはどんな方でしょう。昔から怖いものの代表は「地震・かみなり・火事・おやじ」と言われていましたが、最近ではやさしいお父さんが多いですね。天のお父様はどんな方でしょうね。

## お祈り（Prayer）

あなたはお祈りする時、どのような言葉で始めますか？「神さま」ですか、「イエスさま」ですか、「天のお父さま」ですか。もちろんどのような言葉でもオッケーですよ。では、イエス様のお祈りはどのような言葉で始まっているでしょう。十字架にかかれる前のゲッセマネの園での祈りは、「父よ、みこころならばこのさかずきをわたしから取

りのけてください」でした。また、十字架の上での一番はじめの祈りは、「父よ、かれらをおゆるしてください」でした。他にもイエス様の祈りを見ると「父よ」で始まっています。イエス様は神様のひとり子であられるからこのように祈られたのでしょうか。いいえ、そうではありません。イエス様が弟子たちにお祈りを教えて下さった時、「天にいますわれらの父よ」と祈りなさいと教えられました。ですから、私たちがお祈りする時、神様を「天のお父さま」と呼びするのは、イエス様が言われた通りなのです。力ある、やさしくて何でも知っておられる神様を「お父さま」ってお呼びできるなんて素晴らしいことですね。お祈りは神様とお話することです。お話ですから、よそゆきの言葉を使う必要はありません。遠慮も要りません。嬉しかったこと、悲しかったこと、苦しかったこと、お願いしたいこと、何でも自由にお話ししましょう。でも、神様は目に見えないお方ですね。どうしたらお話できるでしょう。まず目をつぶって「天のお父さま」とお呼びしてごらんください。ほら目で見えるよりもっとはつきり神様のことがわかるような気持ちになるでしょう。あとはお話するよう、「わたしのお祈りに耳を傾けて聞いてください。そして、神様のお

6月

# 17日 礼拝メッセージ例

話になることもわたしがわかるように助けてください」と祈りましょう。

## 求めなさい！

イエス様はお祈りする時、「求めよ、捜せ、門をたたけ」と三回も同じような言葉をくりかえして勧めておられます。しかもこれらは一度限りのことでなく「求め続けよ、捜し続けよ、門をたたき続けよ」という意味が含まれています。それぐらい熱心に祈り求めなさいというのですね。そうすれば「与えられる、見いだす、開けてもらえる」と言われました。「もしかして与えられるかもしれない」とか、「たぶん与えられるでしょう」ではありません。熱心に、あきらめないことです。

## 答えてくださる天の父

さらにイエス様は、自分の子どもが「お腹すいたよう、パンをちょうだい」と欲しがっている時、「はい、どうぞ」と言つて、石をあげる父親はいません。また「魚が食べた」と言うのに、へびを与える父親はいません。自分の子には良い物を与えようとしません。まして、天の父は、私たちを愛してくださるお方ですから、信じて、熱心に求める時、一番よい時に、一番よい方法で、一番良いものを与え

て下さるのです。それによつて、神様の栄光が表されるためなのです。

## 名古屋教会 会堂取得物語

名古屋教会は二〇〇九年秋、開拓伝道40年目に会堂が与えられました。開拓を始めた年は一九六九年、丁度アポロ11号が月面着陸に成功した年ですから随分前のことです。初めは四軒長屋の一つで、次は古い借家を改装して礼拝堂にし、伝道しました。青空教会学校、路傍伝道、天幕伝道など、中村区6万戸全戸に一枚一枚トラクトを配りもしました。伝道は困難で、亀のようなのろい歩みでしたが、決してあきらめないで一步一步前進しました。日本中を揺るがす不法建築事件の時、借家の耐震調査を受けた結果、危険建物であることが判明しました。そのことをきっかけに、真剣に地震に耐える建物をと祈るようになりました。心を一つにし、熱心に祈り続けたとき、神様は借家の真向かいに、鉄筋のそれはそれは頑丈な建物を与えて下さいました。教会の人達だけでなく、町の人々も口々に神様をほめたたえています。ハレルヤ！

♪いのりにこたえる神さま♪

(ふくいん子どもさんびか 60)

# 聖書 マタイ7・24～27 テーマ 岩を土台とする生涯

## 序論

(福井文彦)

5～7章の「山上の説教」の結びとして、イエスは二種類の「土台」のたとえをお話しされました。これはイエスに対するただ二つの応答方法で、みことばを聞いて行うか、拒むかで、私たちの生涯と永遠が決定するのです。同時に、「山上の説教」の目指すところを示しています。

## 一、人生には堅固な土台が必要である

イエスは最後に、岩を土台として自分の家を建てる人(24)と砂を土台として自分の家を建てる人(26)について話されました。家を建てるときに土台は一番大切な工事です。その家を建てるのに、イエスは岩を土台として建てる人は賢い人であり、砂を土台として建てる人は愚かな人である、と言われました。

なぜなら、岩は丈夫なものであり、堅固なものです。ですから、〈雨が降り、洪水が押し寄せ、風が吹いてその家に打ちつけても、倒れることはない〉のです。一方

砂は弱く、崩れやすいものです。ですから、〈雨が降り、洪水が押し寄せ、風が吹いてその家に打ちつけると、倒れてしまう。そしてその倒れ方はひどい〉のです。

このたとえでは、〈家〉は私たちの人生になぞらえられています。したがって、〈岩〉と〈砂〉は人生の土台のことです。私たちがイエス・キリストを信じたからといって、順風満帆じゆんぷまんぱんで、御利益があつて、よいことづくめの生活となるわけではありません。イエスを信じたら必ず商売繁盛、無病息災になるというわけにはいかないのです。イエスは〈雨が降り、洪水が押し寄せ、風が吹いて〉と言われ、イエスを信じても、さまざまな人生の嵐に会い、人生にはさまざまな試練があると言われました。ですから、その人生の土台を岩にするか、砂にするかは非常に大切な選択であり、決断を求められるのです。なぜなら、イエスが言われた〈賢い人〉のように、岩を人生の土台とすれば、試練に会っても、耐えて勝利することが出来ます。また終わりの日の神の裁きの嵐にも耐えることが出来ます。しかし、〈砂〉を人生の土台とすれば、さまざまな試練は人生を崩壊させ、完全な破滅すらもたらすこととなります。また終わりの日の神の裁きの

嵐にも耐えることができないのです。ですから、人生に堅固な土台が必要なのです。

## 二、み言葉を聞いて行う

イエスは〈わたしのこれらの言葉を聞いて行うものを、岩の上に自分の家を建てた賢い人〉と言われました。その〈岩〉とはイエスの〈言葉〉であり（1テモテ6・3）、みこころであり、イエスご自身です（1コリント3・11）。ですから〈岩の上に自分の家を建て〉るとは、イエスの言葉を聞いて行うことであり、〈聞いて行う〉とは聴従することです。そのことをルカによる福音書では「地を深く掘り、岩の上に土台をすえ」（6・48）と言っています。岩の上に堅固な土台をすえるために、土を掘る努力が必要ですが、それはみ言葉を深く掘り下げて学ぶことです。深く掘り下げて学ぶとは、単なる研究ではなく、聖書の正しい理解を持ち、これを敬い、み言葉を日常生活（個人生活、家庭生活、社会生活、教会生活）に適用して生きることです。また、それは謙虚にみ言葉に聴き従うことでもあります。また、神のみ言葉を日常生活に適用することによって、生活の力が与えられます。その確固たる基盤の上に人生という〈家〉を建てると

です。しかし、この家にも試練のときがやって来ます。〈雨が降り、洪水が押し寄せ、風が吹いて〉家を打ちつけるとき、これは三重の災難です。屋根には〈雨〉、土台には〈洪水〉、壁には〈風〉の大嵐が襲います。しかし〈倒れない〉理由は〈岩〉を土台としているからです。対照的なのは、〈砂の上に自分の家を建てた愚かな人〉です。〈砂〉とは「土台なしで、土の上に」（ルカ6・49）という意味です。試練が来たとき、その〈倒れ方〉は〈ひどい〉のです。〈ひどい〉とは破壊が完全であるという意味です。理由はイエスのみ言葉を聞いても〈行わな〉かったからです。謙虚にみ言葉に聴き従わなかった、すなわち、イエス・キリスト以外のものを頼みとしていたからです。

## 結論

イエスは、山上の説教の最後のたとえで、主のみことばに聞き従うか従わないかによって、救いか滅びか、いのちか死かが定まると言われました。みことばを聞いて行う確かな生き方、生涯を送る者とならせていただきます。

## 研究資料

(中島啓二)

山上の説教はいよいよ最後の部分を迎える。直前の15〜20節では「実を結ぶ」ことに、そして21〜23節では「父の御旨を行う」ことに強調点が置かれているが、「実を」結ぶ(17)、「行う」(21)の両者とも動詞は[ギ]ポイエオー(第一義は「行う」)である。そして今回の箇所では中心的に命じられている「行う」(24)の動詞もまた[ギ]ポイエオーなのである。このように山上の説教の結論部分では繰り返し「行い」が強調されていることがわかる。人は、イエスの言葉を聞いて、単に知的に満足するだけではなく、「聞いて行う」(24)ことが不可欠なのである。その、聞いた上での「行い」の有無が、終末の審判において、その人が滅びるか否かという結末を決定的に左右するのである。もちろん、この「行い」の強調は、行為義認の肯定でも、信仰義認の否定でも決してない。山上の説教は、それだけで完結するものではなく、神の恵みによる救いという福音を中心テーマに据えた福音書全体(あるいは聖書全体)という大きな文脈でとらえる必要があるのである。神の恵みによって新しく生まれた者は、生き方も新しくならなければ

ならない。その生き方こそが、イエスとその言葉に土台を据えた生き方なのであり、この賢い人と愚かな人のたとえば、読者をそのような生き方へと誘う招きであると言える。

## テキスト

**24 それで** 以下のことが、山上の説教の結論として語られていることを示す接続詞。**わたしのこれらの言葉** 5章から語られてきた山上の説教を指す。原文でも「わたしの」が先頭にあり、そこに強調点がある。キリスト者の行動の基準は、律法の成就として来られた、イエス自身の言葉なのである。**聞いて行うもの** 神の言葉・神の意志に関して、聞くだけでなく、行いが伴わねばならないことが強調されている(12・50、ルカ8・21、ヤコブ1・22〜25等)。**岩の上に** 揺らぐことのない堅固な土台を意味する。イエスは「あなたこそ、生ける神の子キリストです」(16・16)とのペテロの信仰告白を踏まえて、「この岩の上にわたしの教会を建てよう」(16・18)と言われた。イエスの言葉に対する絶対的な信頼と服従に基づく生き方が、その人の人生を揺るぎないものとする。**賢い** [ギ]フロニモスで「忠実、賢い、眼識ある」という意味。真理を知っているだけでなく、その真理に基づいて行動すること(25・45参照)。

「愚かな〔ギ〕モーロス」(26)と対比。25・1〜13の十人のおとめのたとえにも同じ対比が用いられている。マタイにおける「賢い」とは、端的に言えば「忠実、従順」であること。イエスの教えに忠実に従って行動するかどうかが重要なのである。比べることができよう。直訳は「すべてのようである」。原文では〔ギ〕パース(すべて)が節の冒頭に置かれており(26節も同様)、このことが、この警句的なたとえに「招き」の響きを持たせている。聴衆・読者は聞いて行う者となるようにとの勧告・招きを受けているのである。

- イエスの言葉に忠実に従って生きているからである。
- 26 聞いても行わない者 イエスの言葉を聞くだけで行わないことが、その人の愚かさとなる。砂の上に 砂は土台として不適当なものである。
- 27 倒れてしまう 愚かな人は賢い人とは全く正反対の結果を迎える。その倒れ方はひどいのである。ここまでは一言一句がきれいに対応して比較されてきた両者であるが、この最後の言葉はその対比のバランスを(恐らく意識的に)崩すものである。その倒れ方のひどさは、それほどまでして強調したい要点だと言えよう。すなわち人の運命に対する最後の審判の徹底的な決定性がここには表されていると言える。ここまで述べてきた通り、このたとえの中心的な視点は、最後の審判のときに据えられているが、とはいえず、地上での人生における種々の試練を除外する必要はない。究極的には最後の審判を見据えつつ、人間の生き方は、キリストを土台としているか否かによって、いざというときにふるわれるものである。

参考文献 4月1日分と同じ。

## 聖書

## タイトル

## 暗唱聖句

マタイ7・24～27

びくともしない生き方とは？

わたしのこれらの言葉を聞いて行うものを、岩の上に自分の家を建てた賢い人に比べることができよう。

マタイ7・24

## 目標

み言葉を聞いて行う、堅固な生き方を  
する。

## 導入

(松浦みち子)

毎年のように大雨が降って洪水が起こり、山が崩れ落ちたり、家や道路がメチャメチャになるニュースを目にした  
り耳にしますね。それだけでなく、尊い命が失われるニ  
ュースには胸が痛みます。突然起こる出来事に、びくともし  
ない生き方があるでしょうか？

## 岩の上に家を建てた人

イエス様が二種類の人のお話をされました。はじめは、  
岩の上に家を建てた人のお話です。この人は頑丈な岩を土  
台にして、その上に家を建てておりました。硬い岩ま  
で地面を深く掘り下げ、それから土台を据えました。「よ

いしよ、こらしよ」と一生懸命働き、やつとのことです。岩の  
上に建つ家を完成させました。ある日のことです。雨がポ  
ツリポツリ降り出したかと思うと、大雨になりゴーゴー、  
ヒューヒューと強い風も吹いてきて大嵐になりました。そ  
れだけではありません。川の水が溢れ、洪水となりその家  
に押し寄せてきました。でも、岩の上に建てた家は、とて  
も頑丈で、びくともしませんでした。硬い岩を土台として  
いたからです。

## 砂の上に家を建てた人

もう一方の人のお話です。この人は、砂地の上にそのま  
ま家を建てました。地面を深く掘るのが面倒だったからで  
す。工事はどんなにかどおり、見る見る間に大きな立派な  
家が出来上がりました。この家にも嵐が襲ってきました。  
ポツポツ雨が降り出したかと思うと、やがて大雨になり、  
洪水が押し寄せてきました。メリメリ、バキツ、バキツ、  
ズズズと家が傾いたかと思うと、あっ、大変！ドツカー  
ンと大きな音と共に家が倒れてしまいました。家はペッシヤ  
ンコになり、もう直すこともできないほどひどい倒れ方だ  
した。この家の土台は砂地だったからです。

## みことばを実行する人

イエス様はこうおっしゃいました。「わたしのこれらの言葉を聞いて行うものを、岩の上に自分の家を建てた賢い人に比べることができるよう。」また「わたしのこれらの言葉を聞いても行わない者を砂の上に自分の家を建てた愚かな人に比べることができるよう。」

あなたはどちら？ 賢い人、それとも愚かな人。また、次のようにもおっしゃっておられますよ。『主よ、主よ』と言う者が、みな天国にはいるのではなく、ただ、天にいますわが父の御旨を行う者だけが、はいるのである」と。

ただ、み言葉を聞くだけではいけません。イエス様を信じ、イエス様のお心を知ってみ言葉を実行する者だけが天国に入ると、言われました。やがて私たちは大人であつても子どもであつても最後の日を迎えなければなりません。それはいつか？ だれも知りません。東日本の震災が私たちに多くのことを教えてくれます。決して忘れてはなりません。私たちは今を生きるものとして、この惨事を目にした目撃者だからです。

びくともしない生き方とは、み言葉を土台とした生き方です。「天地は滅びるであろう。しかしわたしの言葉は決

して滅びることがない」(ルカ21・33)と宣言されています。私たちの人生には色々の事が起こります。思わぬ病氣になったり、人に裏切られたり、誤解されたり、失敗したり、肉親と別れたり、このような嵐が襲つて来る場合があります。でも、どんな嵐の中を通してても、み言葉に土台を置いて生きるなら必ず神様の助けがあります。「下には永遠の腕がある」(申命記33・27)と約束されているように、力強い主のみ手が私たちを支えて下さるからです。さあ、あなたもみ言葉をしっかりと心に蓄えて実行する人になりましょう。

最後に、コリー・テン・ブームというオランダの婦人のあかしです。彼女は命を狙われているユダヤ人たちを助けたという罪でドイツのナチ収容所に入れられました。その中で、み言葉を信じ続け、神様こそ隠れ家、避け所であることを体験したのです。ノミだらけの藁の布団を与えられた時も、すべての事を感謝しなさい、というみ言葉で「気持ちのいい環境だけを感謝しなさいとは書いてないわ」と、ノミのために感謝をささげたそうです。み言葉を土台とする堅固な生活ですね。

♪賢い人と愚かな人♪

(救いの聖歌37)

# 牧羊ひろば



京都聖徒教会 教会学校

幼な子らをわたしの所に来るままに  
しておきなさい。止めてはならない。  
神の国はこのような者の国である。

マルコ 10・14

## ●教会学校は教会の働きの真ん中に

「教会学校の働きは教会の働きの  
付け足しではなく、教会の働きの真  
ん中にあるものである。」先日の教  
区CS教師研修会の中で、このこと  
が語られました。私たちの教会も、  
教会学校はCS教師だけであるもの  
ではなく、教会全体で取り組む働き  
であるということを念頭に、今日ま  
で教会学校の働きが続けられてきま  
した。

京都聖徒教会は、一九二七年、初代牧師樋口勝吉先生  
と信徒たちによって設立され、戦後、初期の段階で教団  
に加盟し、今に至っています。京都市の北部に位置し、  
府立植物園や加茂川に近く、環境に恵まれています。ま

た、地下鉄の駅が目の前にあり、交通にも便利な立地で  
す。京都市内だけでなく、滋賀県、福井県、大阪府方面  
にも信徒がおられ、教会学校にも遠方から集う子供たち  
があります。

## ①宣教の働きとして

あなたの若い日に、あなたの造り主を覚えよ。

伝道12・1

子供たちへの宣教は、イエス様の宣教命令に応える大  
切な働きであります。そのため、毎週の教会学校礼拝だ  
けでなく、のちにご紹介します「ジョイ！フレンズ！」  
や、年間を通しての行事にも、多くの教会員に参加して  
いただいています。教会員みんなが子供たちの救霊に重  
荷を持ち、祈り、関わりを持ち続けていくことは主の御  
心ですから、共に子供たちの救霊に携わっていただい  
ています。

## ②牧会の働きとして

イエスは彼に言われた、「わたしの羊を飼いなさい」。

ヨハネ21・16

教会には様々な思いや課題を抱えて通っている子供た  
ちが大勢います。その課題を共有し、解決のために共に

祈ること、そして魂の救いへと導くことは、教会学校に与えられた大切な働きです。そのような中、昨年は3人の生徒たちが信仰の決心をし、受洗へと導かれました。本当に感謝です。続いてこの生徒たちが主によって養われ、生き生きとした信仰生活に導かれるよう、また、後に続く受洗者が起こされるように祈りつつ励んでいます。

### ③地域宣教として

あなたがたは、地の塩である。

あなたがたは、世の光である。

マタイ5・13

マタイ5・14

教会が地域に根差し、地の塩・世の光として建てあげられていくためにも、子供伝道は大切な働きであると考えています。しかし、前述しました通り、遠方から集う子供たちも多く、また昨今の社会情勢から、地域への宣教には特に祈りを要しています。現在集っている子供たちを確実に救いへと導くことを目指しつつ、地域宣教のためにも主からの知恵と力をいただけるよう、祈り励みたいと願っています。



洗礼式

## ●教会学校の活動紹介

### ①教会学校礼拝と分級

毎週日曜日の教会学校礼拝は、午前9時20分から行っています。礼拝前には、CS教師が集まり、奉仕の確認や子供たちの状況を分かち合います。その後、祈りをもつて始めます。生徒は現在、幼稚科が約3名、小学科が約10名、中高科が約4名出席しています。大人も同数程度出席し、全体で30名ほどで礼拝を守っています。

司会、奏楽、ボーカル、プロジェクタ、み言葉朗読、祈禱、献金などの奉仕がありますが、ボーカル、み言葉朗読、献金などは子供たちにも積極的に奉仕してもらっています。奉仕を通して、主に仕えることの喜びを感じてもらいたいと願っています。礼拝では、牧羊者からみ言葉が語られます。礼拝の後は、幼稚科、小学科とジュニアクラスに分かれ、こちらも牧羊者のワークを用いて学びを深め、祈りの時をもっています。

### ②ジョイ！フレンズ！

月に一度、主に第三日曜日の午後、「ジョイ！フレンズ！」という集会を行っています。これは、子供たちの信仰の確立のためや、朝の教会学校礼拝に参加できない

子供たちのために、4年前から始められました。内容は、ゲーム、賛美、誕生月のお祝い、聖句暗唱、聖書のお話などです。

**ゲーム**…集会に先立って、約15分間、主に体を動かして思いっきり遊びます。

**賛美**…ボードに歌詞を掲示して、体を動かしたりしながら元気に賛美しています。

**誕生月のお祝い**…その月に生まれた方々を子供から大人まで紹介し、祝福のお祈りをします。

**聖句暗唱**…毎回、メッセージの中心となる短いみ言葉を覚えます。また、このみ言葉はカードにして配っています。

**聖書のお話**…暗唱したみ言葉から、牧師が10分程度のメッセージを語ります。

この後、小学科とジュニアは祈りの時をもちます。みんなが集いやすいように、この祈り会とゲームを除いて



賛美



ゲーム

30分と、コンパクトな集会にしています。また、ロゴマークを決めたり、Tシャツを作るなどして、集会への意識を高める工夫をしています。

毎月の集会の他、年に二回、「ジョ

イ！フレンズ！スペシャル」を行っています。いつもより、ゲームを増やし、メッセージの後には催し物（ダンス、缶当て、トランポリン、バスケットゲーム、ビーズ作り、お絵かきなど）をしたり、公園へ出かけたりしています。その他、おやつや福引きなど、楽しい時をもっています。毎回、教会員の方々も多数出席し、教会をあげて取り組んでいる働きのひとつです。

### ③年間行事

毎週の礼拝や「ジョイ！フレンズ！」の他、年間を通して多くの行事を行っています。

**もちつき大会（1月）**…教会のガレ

ジで、うすときねで昔ながらのもちつきをしています。ついたおもちは、みんなで丸めておいしくい



もちつき大会



ロゴ

たきます。

**たごあげ大会（2月）**…分級の時間などを利用してたごを作り、加茂川の河川敷であげています。

**野外親睦会（春）**…植物園や加茂川、近くの公園などでかけ、楽しい交わりの時を持っています。

**イースター祝会、クリスマス祝会**…礼拝後に行っている祝会に参加し、幼稚科、小学科、ジュニアクラスで賛美や劇などを発表します。最近では、子供たちが作詞・作曲した賛美を披露したり、脚本を書き下ろした劇を上演したりしました。子供たちが自発的に主を賛美することを喜び、神様の栄光を現そうとする姿に感動を覚えました。

**花の日**…日頃の感謝をこめて、近くの交番や消防署、交通局へ、子供たちが書いた感謝のカードと共にお花を届けています。

**幼稚科キャンプ（7月）**…教会で日帰りキャンプや一泊二日のキャンプを行っています。近くの小川や公園で遊んだり、食事やおやつなど楽しく過ごし、教会に泊まりま



花の日（消防署）

す。

**小学生キャンプ（8月）**…湖西祈りの家を会場に行っている、二泊三日のキャンプです。毎年、地方会員の一家や、他教会へ転会した方々も参加され、楽しい交わりの時を持っています。特に昨年は、原発事故で思うように外で遊ぶことのできない東北地区の子供たちとご家族（26名）を招待することができました。思い切り遊んでもらうことができ、また、教会の子供たちにとっても貴重な交わりが与えられ感謝でした。

**ファミリーキャンプ（秋）**…湖西祈りの家で行っている教会全体のキャンプです。キャンプの中で行われるファミリー礼拝では子供たちにも分かりやすいメッセージが語られています。また、+ミニ運動会など、楽しいプログラムを用意しています。

**幼児祝福式（11月）**…主日礼拝の中



ファミリーキャンプ  
（ミニ運動会）



小学生キャンプ（鮎とり）

で、7才までの子供たちを前に招き、祝福を祈っています。

**こどもクリスマス（12月）**：子供たちのクリスマス会です。教会のメンバーの他、誘われてきたお友達や、教会員の家族など、たくさんの子供たちが参加しています。

この他、不定期ですが、遠足、いもほり、ぶどう狩りなど、野外での楽しい交わりも行っています。また、中高生のメンバーは、教区のティーンズ・バイブル・キャンプ（8月）や「たおたお」（4月、12月）に参加し、信仰の決心や養いが与えられています。「たおたお」とは「た」のしくて、「お」いしくて、「た」めになる、「お」あつまり、の頭文字をとったもので、年一度のキャンプに終わらず、メンバーの決心や養いが継続されるようにと行われている集会です。このような楽しい催しを通して、交わりを深め、神様の恵みを覚えています。教会に来ることが楽しいと感じ、



じゃが芋掘り



幼児祝福式

教会に親しんでもらうことも、救霊のために大切なことと考えています。

### ●これからの課題

#### ①地域への宣教

先にも記しましたが、地域宣教には祈りを要しています。教会は大通りに面し、街中の感がありますが、徒歩10分圏内には小学校が三つ、中学校が一つ、幼稚園や保育園もいくつかあります。教会の前を通って登下校する子供たちも大勢います。学校前でのチラシ配布は難しいですが、教会の前に集会案内や読み物を置いて、前を通る子供たちが自由に手にとれるようにしています。

#### ②CSから主日礼拝への定着

感謝なことに、信仰の決心が与えられ、受洗に導かれる子供たちが多く起こされています。続いての祈りの課題は、この子供たちが主日礼拝に定着し、生き生きとした信仰生活を送ることです。礼拝に出やすいよう、礼拝堂を整備するなどの工夫をしています。それにも増して子供たち自身が言葉に生かされていることを実感し、喜びに満ちた信仰生活を送れるように祈っています。

続いて、主から知恵をいただき、主から与えられた使命を果たせるよう祈りつつ、教会をあげて子供たちの救霊に取り組んでいきたいと願っています。(吉田 真)

## 『牧羊者』のご購読・ご利用について

- \*分級用に、ワークA(幼稚園向け)、B(主に小学生1～3年生向け)、C(主に小学生4～6年生向け)を用意しています。また、付録として「子ども聖書日課」、「フラッシュカード」、「み言葉カード」、「中高科へのヒント」があります。いずれも、下記ホームページから無料でダウンロードできます。郵送ご希望の方には、ワークは各630円(税込)でお送りします。
- \*日本イエス・キリスト教団教会学校局のホームページが開設されました。ワークや付録、申込書等、無料でダウンロードできます。ご利用ください。  
<http://cs.jccj.info/>
- \*ご注文は、日本イエス・キリスト教団(事務所)まで。

## おわりに

今回も『牧羊者』二〇一二年度第I巻をお届けできまことを感謝します。執筆者のご労苦に感謝いたします。今回の教師養成講座は、小野淳子師に「児童伝道の重荷と幻」を書いていただきました。また、「牧羊ひろば」では、京都聖徒教会の教会学校を紹介していただきました。今号の執筆者、奉仕者を紹介いたします。

聖書講解 研究資料	金井信生師 中島啓一師 小平徳行師 飯田勝彦師 松浦みち子師	高橋頼男師 宮澤清志師 金井由嗣師 和田 治師 水野晶子師
ワーク(A) (B) (C)	吉田美徳師 野勢かほる師 田中裕明師 石田高保師 田中愛子師 丹羽 遥姉 丹羽 遥姉 楠 淳子師 長田栄一師 長尾秀紀師	小菅央子師 竹崎光則師 田代美雪師 後藤健一師 小野淳子師 青木みぎわ姉 長尾明美師 加藤 清師 長尾明美師
中高科へのヒント 子ども聖書日課 フラッシュカード イラスト ワーク打ち込み 校 正	松浦あん姉 松浦あん姉 松浦あん姉 松浦あん姉 松浦あん姉 松浦あん姉 松浦あん姉 山田和幸師	

また、発送の教団事務所の兄姉、印刷の松木共栄印刷、菱三印刷に心から感謝いたします。(長尾秀紀)

## 聖書教育教案誌 牧羊者

### 二〇一二年度 I 巻

二〇一二年度四月一日発行

発行所 日本イエス・キリスト教団  
企画監修 日本イエス・キリスト教団教会学校局  
神戸市兵庫区塚本通三三一九  
電話 〇七五五五五一一  
FAX 〇七五五五五一一  
印刷所 菱三印刷株式会社  
電話 〇七五五五五一一  
\*日本聖書協会『口語訳聖書』使用許諾済み